

第2部

稲城市の現状について

第1章 各種データからみる現状について

1 地域包括ケア「見える化」システムによる地域分析

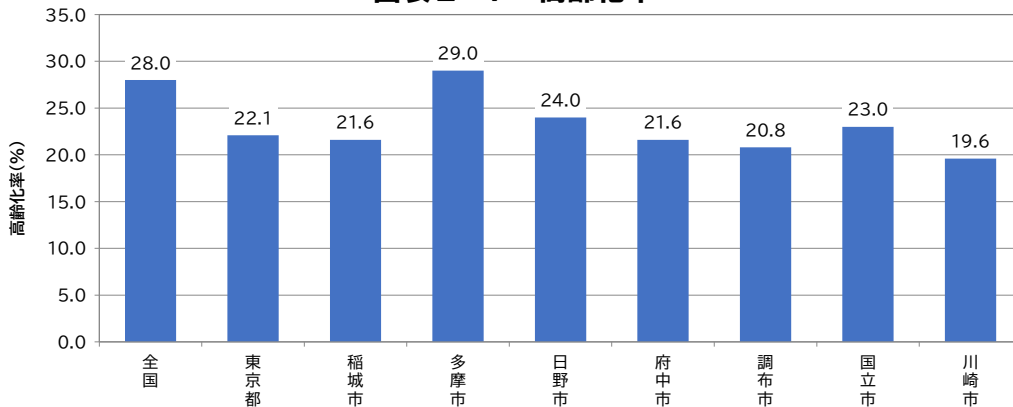
国の地域包括ケア「見える化」システムは、都道府県・市町村における介護保険事業（支援）計画等の策定・実行を総合的に支援するための情報システムです。このシステムを用いて、全国、東京都、周辺自治体との比較を行った結果は次の通りです。

(1) 人口・世帯

① 高齢化率

本市の高齢化率は21.6%となり、全国や東京都と比べて低くなっています。周辺自治体と比較すると川崎市、調布市に次いで低い状況です。

図表2-1 高齢化率



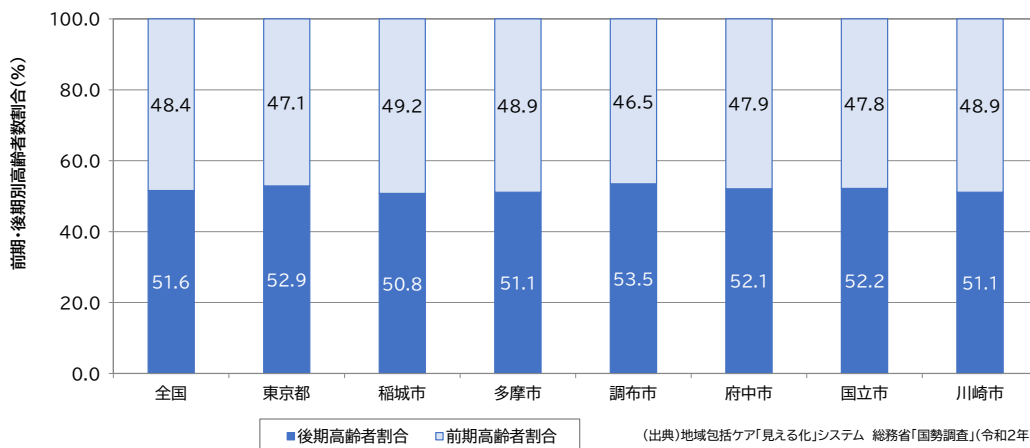
(出典) 地域包括ケア「見える化」システム 総務省「国勢調査」(令和2年)

	全国	東京都	稲城市	多摩市	日野市	府中市	調布市	国立市	川崎市
総人口 (人)	-	14,047,594	93,151	146,951	190,435	262,790	242,614	77,130	1,538,262
高齢化率 (%)	28.0	22.1	21.6	29.0	24.0	21.6	20.8	23.0	19.6
高齢者数 (人)	35,335,805	3,107,822	20,087	42,582	45,652	56,764	50,414	17,748	301,151

② 前期・後期高齢者の割合

本市の第1号被保険者の前期・後期高齢者の割合をみると、全国・東京都・周辺自治体に比べて前期高齢者の割合は高く、後期高齢者の割合は低い状況です。

図表2-2 前期・後期高齢者割合

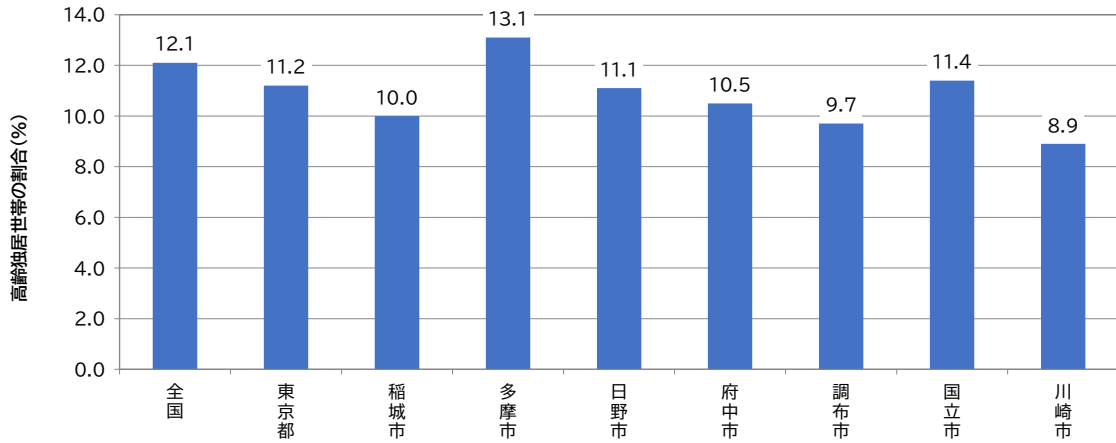


(出典) 地域包括ケア「見える化」システム 総務省「国勢調査」(令和2年)

③ 高齢独居世帯・高齢者夫婦世帯の割合

高齢独居世帯の割合は、全国や東京都に比べて低くなっています。周辺自治体と比較すると、川崎市、調布市に次いで低くなっています。

図表 2-3 高齢独居世帯の割合

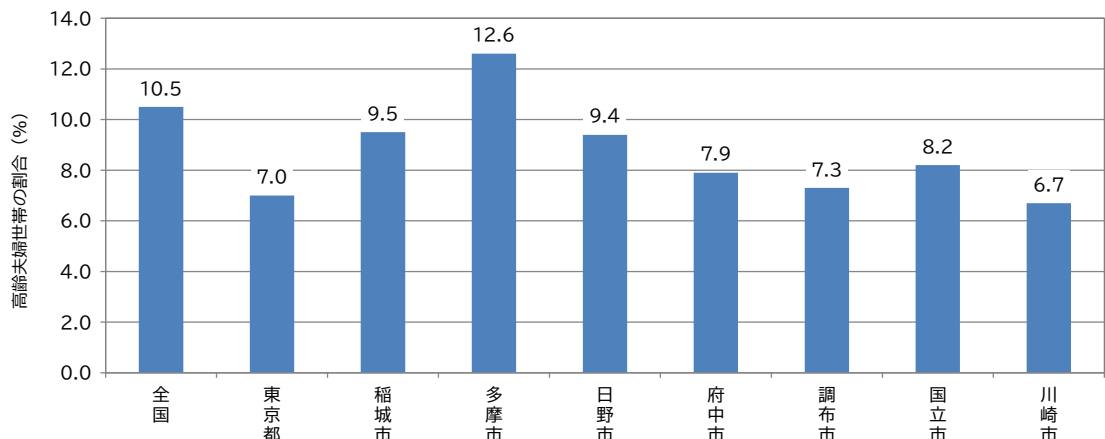


(出典)地域包括ケア「見える化」システム 総務省「国勢調査」(令和2年)

		全国	東京都	稲城市	多摩市	日野市	府中市	調布市	国立市	川崎市
高齢独居世帯の割合	(%)	12.1	11.2	10.0	13.1	11.1	10.5	9.7	11.4	8.9
高齢独居世帯数	(世帯)	6,716,806	811,408	3,981	8,943	9,993	12,995	11,767	4,373	66,075
総世帯数	(世帯)	55,704,949	7,216,650	39,880	68,354	90,257	123,766	120,790	38,227	745,988

一方、高齢夫婦世帯の割合は、全国に比べて低いですが、東京都に比べて2.5ポイント高くなっています。周辺自治体で比較すると、多摩市に次いで高くなっています。

図表 2-4 高齢夫婦世帯の割合



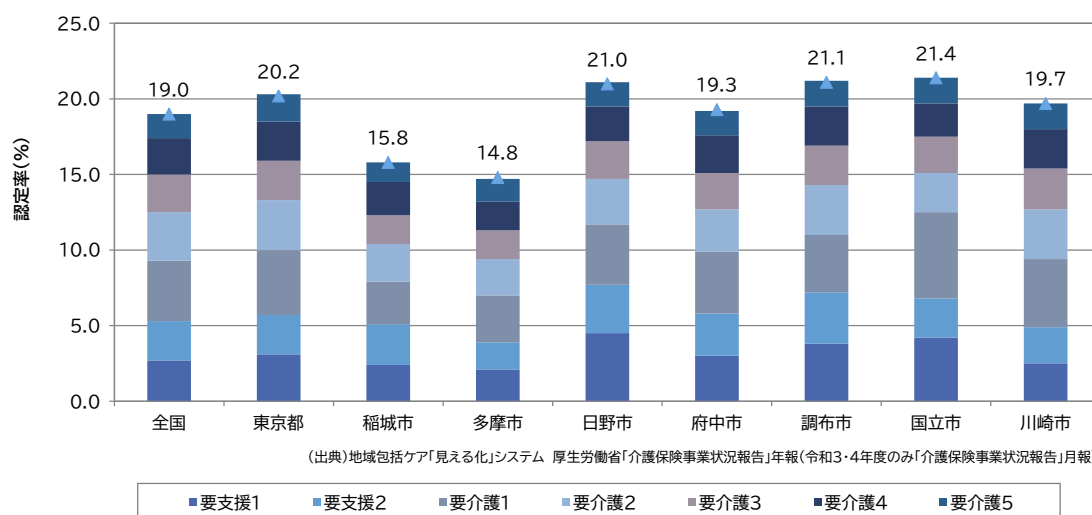
		全国	東京都	稲城市	多摩市	日野市	府中市	調布市	国立市	川崎市
高齢夫婦世帯の割合	(%)	10.5	7.0	9.5	12.6	9.4	7.9	7.3	8.2	6.7
高齢夫婦世帯数	(世帯)	5,830,834	507,028	3,806	8,589	8,499	9,816	8,838	3,142	49,885
総世帯数	(世帯)	55,704,949	7,216,650	39,880	68,354	90,257	123,766	120,790	38,227	745,988

(2) 認定率

① 要支援・要介護認定率

認定率は全国・東京都に比べて低く、周辺自治体と比較すると多摩市に次いで低い値となっている。

図表 2-5 認定率（要介護度別）（令和4年）



認定率(%)	全国	東京都	稲城市	多摩市	日野市	府中市	調布市	国立市	川崎市
要支援1	2.7	3.1	2.4	2.1	4.5	3.0	3.8	4.2	2.5
要支援2	2.6	2.6	2.7	1.8	3.2	2.8	3.4	2.6	2.4
要介護1	4.0	4.3	2.8	3.1	4.0	4.1	3.8	5.7	4.5
要介護2	3.2	3.3	2.5	2.4	3.0	2.8	3.3	2.6	3.3
要介護3	2.5	2.6	1.9	1.9	2.5	2.4	2.6	2.4	2.7
要介護4	2.4	2.6	2.2	1.9	2.3	2.5	2.6	2.2	2.6
要介護5	1.6	1.8	1.3	1.5	1.6	1.6	1.7	1.7	1.7
合計認定率	19.0	20.2	15.8	14.8	21.0	19.3	21.1	21.4	19.7

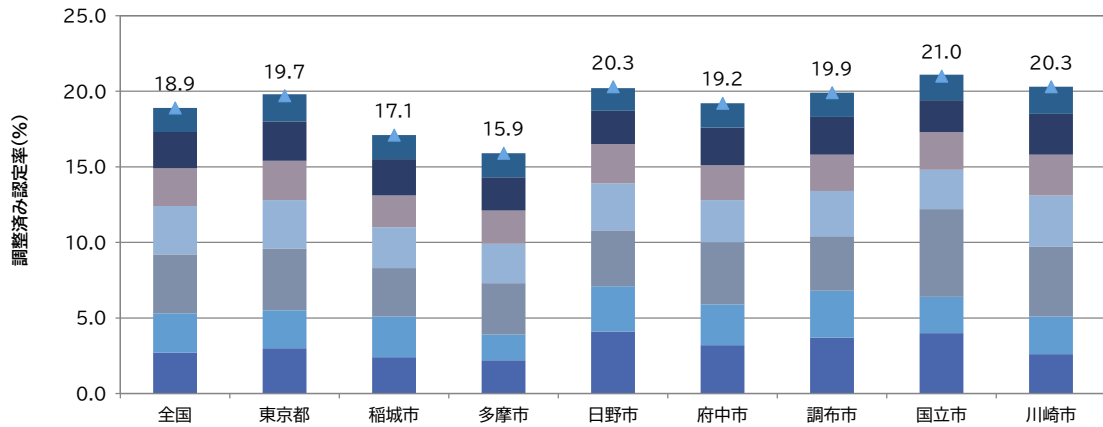
②調整済み認定率

調整済み認定率をみても、認定率と同様に、全国・東京都に比べて低く、周辺自治体と比較すると多摩市に次いで低い値となっている。

※調整済み認定率とは、認定率の大小に大きな影響を及ぼす、「第1号被保険者の性・年齢別人口構成」の影響を除外した認定率を意味します。

一般的に、後期高齢者の認定率は前期高齢者のそれよりも高くなるのが分かっています。第1号被保険者の性・年齢別人口構成が、どの地域も、ある地域または全国平均の一時点と同じになるよう調整することで、それ以外の要素の認定率への影響について、地域間・時系列で比較がしやすくなります。後期高齢者の割合が高い地域の認定率は、調整することで下がります。

図表2-6 調整済み認定率（要介護度別）（令和3年）



(出典)地域包括ケア「見える化」システム 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

■要支援1 ■要支援2 ■要介護1 ■要介護2 ■要介護3 ■要介護4 ■要介護5

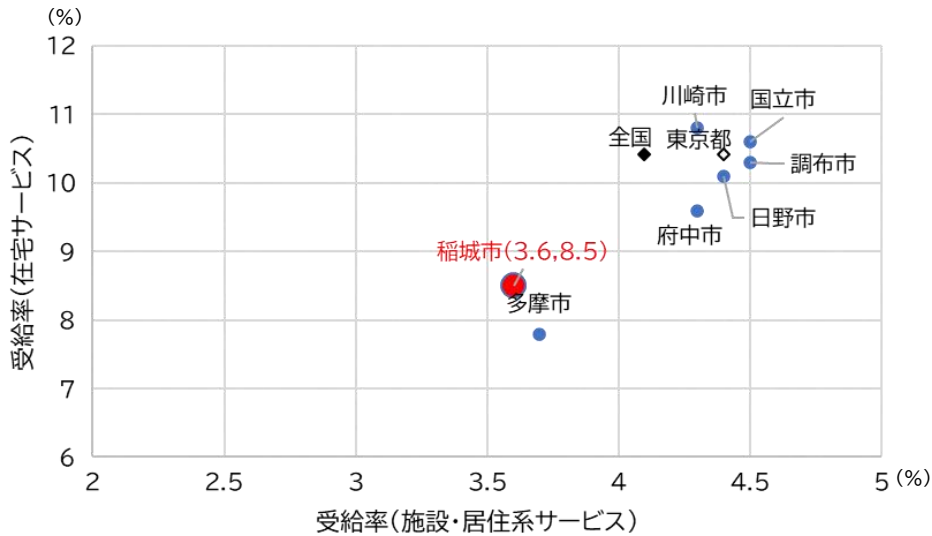
	全国	東京都	稲城市	多摩市	日野市	府中市	調布市	国立市	川崎市
要支援1	2.7	3.0	2.4	2.2	4.1	3.2	3.7	4.0	2.6
要支援2	2.6	2.5	2.7	1.7	3.0	2.7	3.1	2.4	2.5
要介護1	3.9	4.1	3.2	3.4	3.7	4.1	3.6	5.8	4.6
要介護2	3.2	3.2	2.7	2.6	3.1	2.8	3.0	2.6	3.4
要介護3	2.5	2.6	2.1	2.2	2.6	2.3	2.4	2.5	2.7
要介護4	2.4	2.6	2.4	2.2	2.2	2.5	2.5	2.1	2.7
要介護5	1.6	1.8	1.6	1.6	1.5	1.6	1.6	1.7	1.8
【地域】合計調整済み認定率	18.9	19.7	17.1	15.9	20.3	19.2	19.9	21.0	20.3

(3) 受給率

施設・居住系サービス、在宅サービスの受給率の散布図をみると、本市の受給率は、全国や東京都に比べて、施設・居住系サービス、在宅サービスともに低くなっています。周辺自治体と比較すると、施設・居住系サービスは最も低く、在宅サービスは多摩市に次いで2番目に低い状況です。

なお、受給率は第1号被保険者数を分母とするため、これが低いのは、前段に示した本市の認定率の低さが要因として考えられます。

図表2-7 施設・居住系サービスおよび在宅サービス受給率の散布図



(出典)地域包括「見える化」システム 厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報(令和4年)

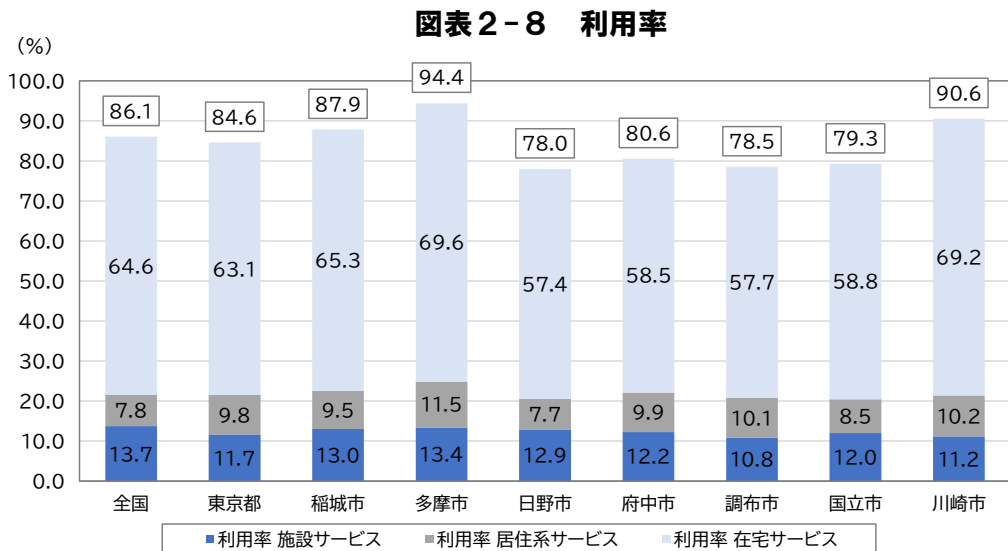
受給率		全国	東京都	稲城市	多摩市	日野市	府中市	調布市	国立市	川崎市
合計受給率(施設サービス)	(%)	2.8	2.4	2.1	2.0	2.8	2.5	2.4	2.6	2.3
合計受給率(居住系サービス)	(%)	1.3	2.0	1.5	1.7	1.6	1.8	2.1	1.9	2.0
合計受給率(在宅サービス)	(%)	10.4	10.4	8.5	7.8	10.1	9.6	10.3	10.6	10.8

(4) 利用率

① 周辺自治体との比較

介護認定を受けている方がどの程度サービスを利用しているかを示す“利用率”をみると、本市の利用率は国や東京都に比べて高く、実際にサービスを利用している方は多いことが分かります。

周辺自治体と比較すると、多摩市、川崎市に次いで高くなっています。

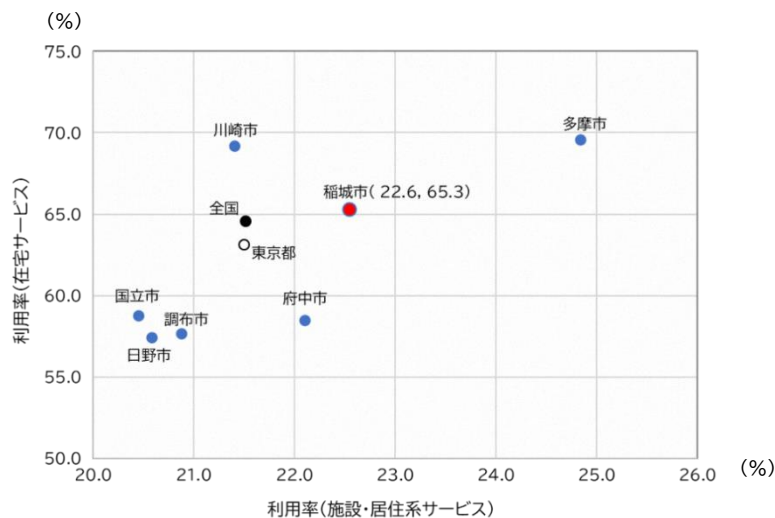


(出典)介護保険事業状況報告(令和4年9月実績)
※利用率は、第1号・2号被保険者の合計により算出

また、施設・居住系サービス、在宅サービスの利用率の散布図をみると、全国や東京都に比べて、施設・居住系サービス、在宅サービスともに高くなっています。

周辺自治体と比較すると、施設・居住系サービスは多摩市に次いで高く、在宅サービスは多摩市、川崎市に次いで高い状況です。

図表 2-9 施設・居住系サービスおよび在宅サービス利用率の散布図



(出典)介護保険事業状況報告(令和4年9月実績) ※利用率は、第1号・2号被保険者の合計により算出

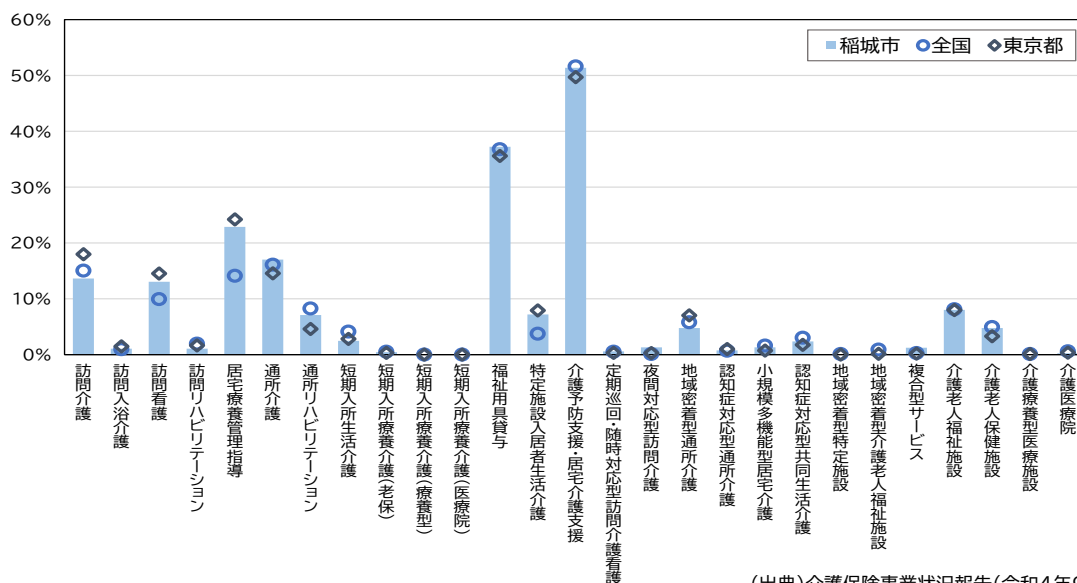
介護指標 (2022年9月実績)	全国	東京都	稲城市	多摩市	日野市	府中市	調布市	国立市	川崎市
利用率	86.09%	84.64%	87.86%	94.41%	78.00%	80.59%	78.54%	79.25%	90.59%
施設サービス	13.71%	11.66%	13.02%	13.38%	12.89%	12.24%	10.79%	11.97%	11.16%
居住系サービス	7.80%	9.83%	9.53%	11.46%	7.69%	9.86%	10.08%	8.48%	10.25%
在宅サービス	64.58%	63.14%	65.31%	69.57%	57.42%	58.48%	57.66%	58.80%	69.19%

②サービス別利用率

全体のサービス利用率を見ると、東京都に比べて「訪問介護」の利用率が低くなっています。

全国と比べると、「訪問看護」、「居宅療養管理指導」、「特定施設入居者生活介護」の利用率が高いものの、東京都と比べると大きな差はないことから、これらは全国に比べて都の利用率が高いサービスと捉えられます。

図表2-10 サービス別利用率【全体】

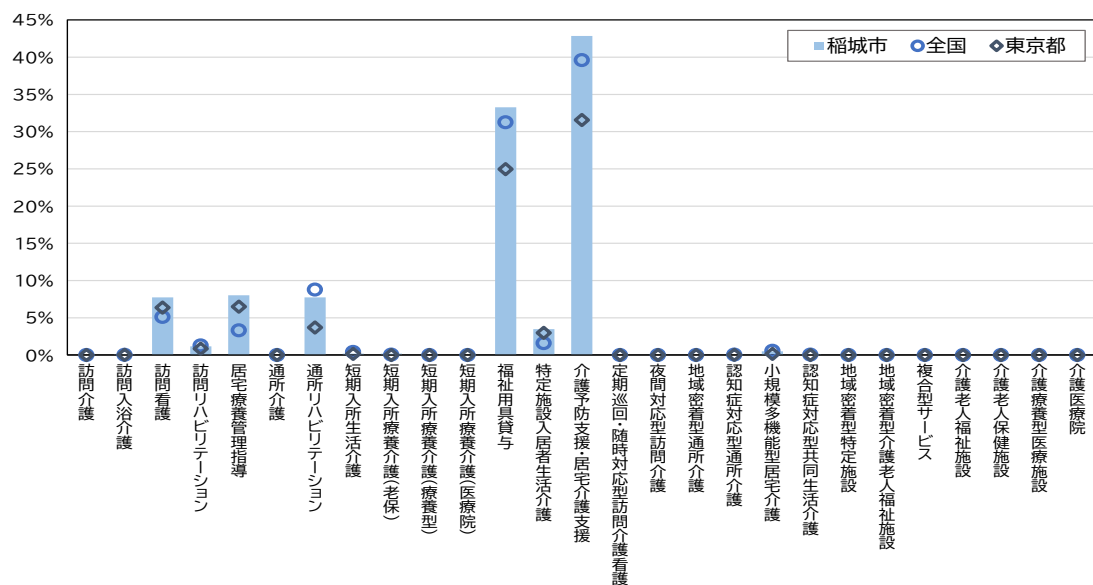


(出典)介護保険事業状況報告(令和4年9月実績)

軽度者のサービス利用率を見ると、東京都に比べて「通所リハビリテーション」、「福祉用具貸与」、「介護予防支援・居宅介護支援」の利用率が高く、特に「福祉用具貸与」は8.3ポイント、「介護予防支援・居宅介護支援」は11.3ポイント高くなっています。

全国と比べると、「居宅療養管理指導」が高いものの、東京都と比べると大きな差はみられません。

図表2-11 サービス別利用率【軽度者】

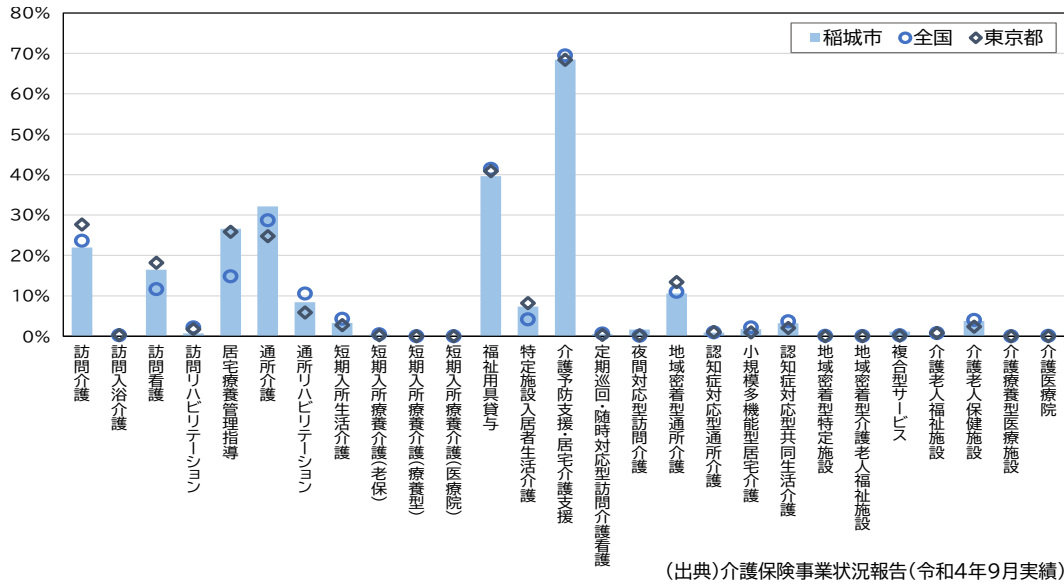


(出典)介護保険事業状況報告(令和4年9月実績)

中度者のサービス利用率を見ると、東京都に比べて「訪問介護」の利用率が低い一方、「通所介護」は高くなっています。なお、「通所介護」は全国と比べても高いことが分かります。

全国と比べると、「訪問看護」、「居宅療養管理指導」、「特定施設入居者生活介護」が高いものの、東京都と比べると大きな差はみられません。

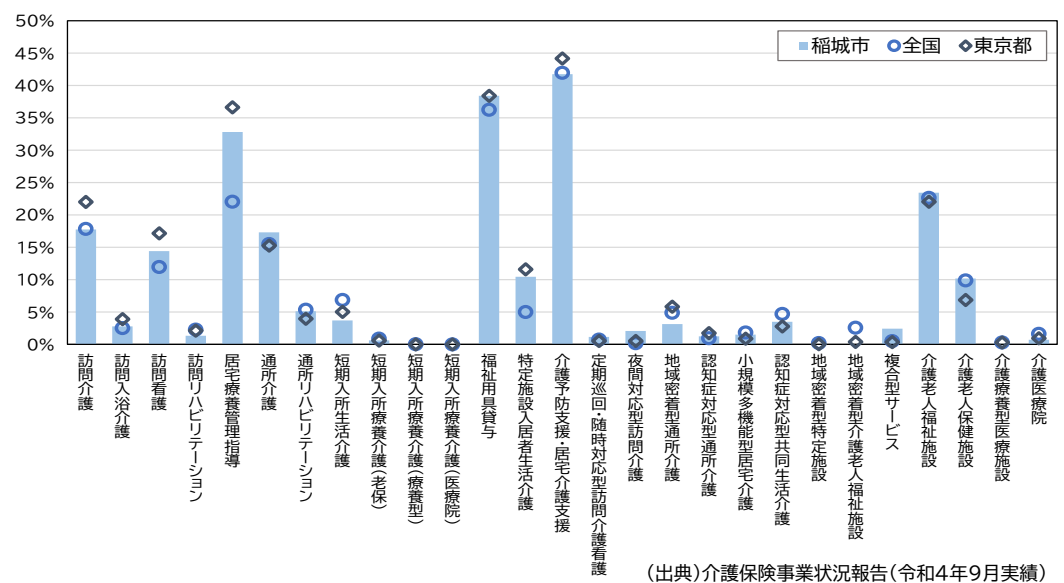
図表 2-12 サービス別利用率【中度者】



重度者のサービス利用率を見ると、東京都に比べて特に「訪問介護」、「居宅療養管理指導」の利用率が低い一方、「介護老人保健施設」は高くなっています。なお、「居宅療養管理指導」は全国に比べると高い利用率となっています。

その他、「特定施設入居者生活介護」は全国に比べ高いものの、東京都と比べると大きな差はみられません。

図表 2-13 サービス別利用率【重度者】

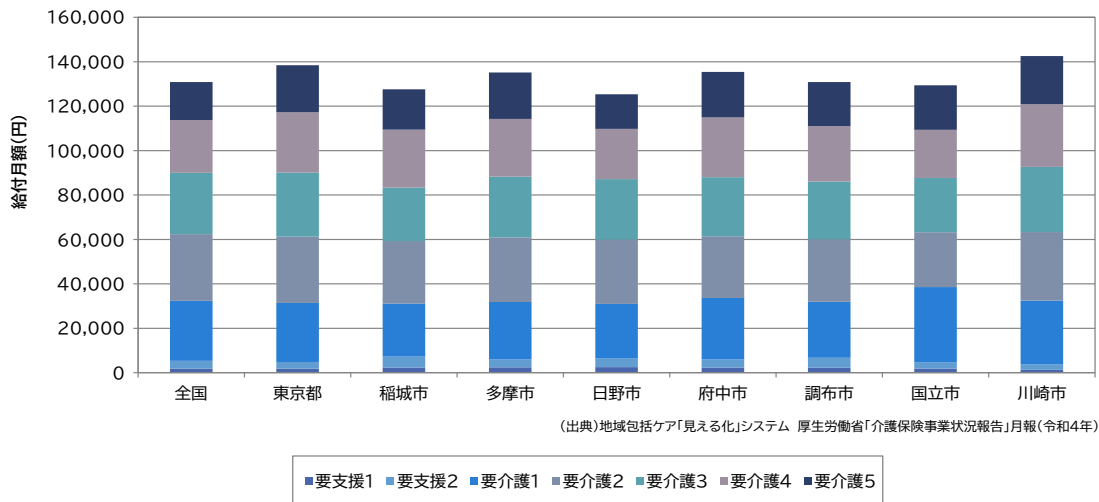


(5) 受給者1人あたり給付月額

在宅および居住系サービスの受給者1人あたりの給付月額は全国や東京都に比べて低く、周辺自治体と比較しても日野市に次いで低くなっています。

要介護度別にみると、全国・東京都に比べ要支援1・2は高く、要介護1以上については要介護4・5が全国に比べてやや高いものの、それ以外では低くなっています。

図表2-14 受給者1人あたり給付月額（要介護度別）（在宅および居住系サービス）



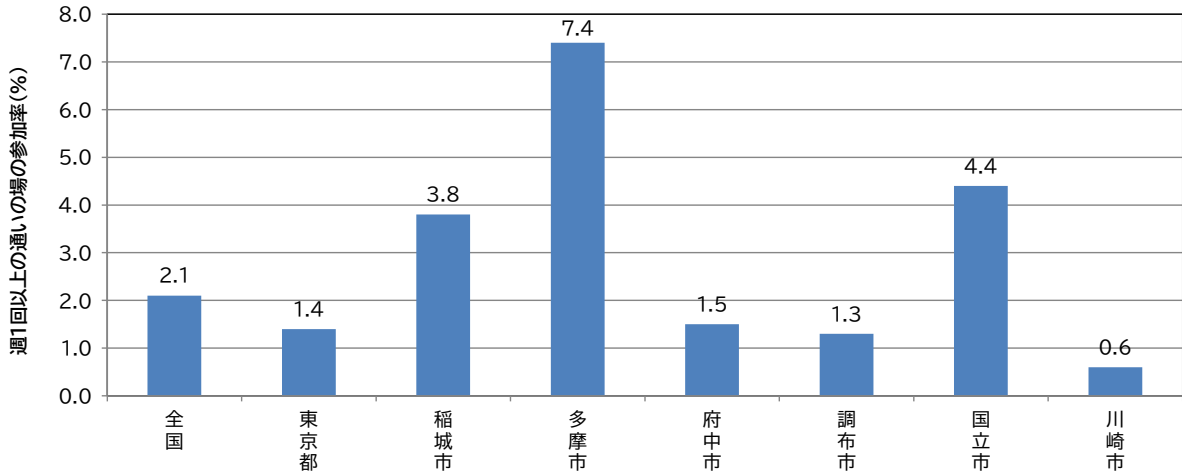
在宅および居住系サービス		全国	東京都	稲城市	多摩市	日野市	府中市	調布市	国立市	川崎市
要支援1	(円)	1,800	1,799	2,387	2,424	2,553	2,333	2,265	1,790	1,336
要支援2	(円)	3,586	3,001	4,832	3,572	3,864	3,648	4,443	2,834	2,483
要介護1	(円)	26,956	26,622	23,960	25,835	24,587	27,708	25,237	33,922	28,642
要介護2	(円)	30,070	29,880	28,153	29,121	28,871	27,730	28,088	24,741	30,850
要介護3	(円)	27,574	28,772	24,080	27,375	27,317	26,600	25,984	24,361	29,402
要介護4	(円)	23,806	27,191	26,035	25,922	22,644	26,942	25,026	21,753	28,177
要介護5	(円)	17,104	21,201	18,185	20,908	15,536	20,514	19,819	20,054	21,650
受給者1人あたり 給付月額(合計)	(円)	130,895	138,467	127,632	135,157	125,372	135,476	130,863	129,455	142,540

(6) 地域支援事業

①週1回以上の通いの場の参加率

週1回以上の通いの場の参加率は全国、東京都に比べて高くなっています。周辺自治体と比較すると多摩市、国立市に次いで高くなっています。

図表2-15 週1回以上の通いの場の参加率



(時点) 令和2年(2020年)

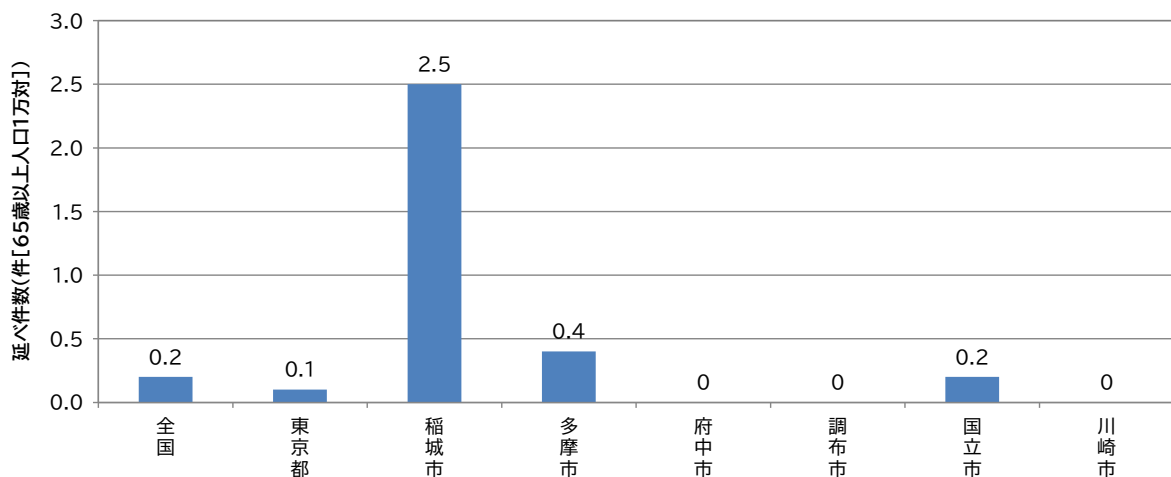
(出典) 厚生労働省「介護予防事業及び介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況に関する調査」および総務省「住民基本台帳」

		全国	東京都	稲城市	多摩市	府中市	調布市	国立市	川崎市
週1回以上の通いの場の参加率	(%)	2.1	1.4	3.8	7.4	1.5	1.3	4.4	0.6
週1回以上の参加者数	(人)	751,197	43,419	759	3,156	863	672	787	1,841
65歳以上の人口	(人)	35,767,994	3,138,535	19,859	42,863	57,533	51,334	18,008	304,412

②通所型サービスC実施延べ件数(65歳以上人口1万人対)

通所型サービスC実施延べ件数(65歳以上人口1万人対)は2.5件となり、全国や東京都に比べて高く、また周辺自治体と比較しても最も高くなっています。

図表2-16 通所型サービスC実施延べ件数(65歳以上人口1万人対)



(時点) 令和3年3月(2021年3月)

(出典) 厚生労働省「介護予防・日常生活支援総合事業(地域支援事業)の実施状況に関する調査結果」

		全国	東京都	稲城市	多摩市	府中市	調布市	国立市	川崎市
通所型サービスC実施延べ件数 【65歳以上人口1万対】	(件)	0.2	0.1	2.5	0.4	0.0	-	0.2	-
通所型サービスC実施延べ件数	(人)	62,935	3,637	515	159	22	-	33	-
65歳以上人口	(人)	36,191,978	3,215,409	20,296	42,945	58,059	51,709	17,156	316,995

2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(1) 調査概要

①調査の目的

本調査は、本計画の策定にあたり、市内の高齢者等の暮らし方や健康状態等を把握し、これを計画策定の基礎資料とするために実施したものです。

②実施概要

調査名	対象者	配布数	回収数	回収率	参考： 前回調査 (令和1年) 回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	・総合事業対象者 ・要支援者 ・圏域別、65歳以上で介護認定を持たない無作為抽出者	4,311人	2,887人 (うち、Web 回答177人)	67.0%	63.7%

【調査方法】 郵送による配布・回収 (Web 回答も可)

【抽出基準日】 令和4年12月1日

【調査期間】 令和5年1月5日 (木) ~ 1月24日 (火)

③主な調査内容

- 基本属性
- 本人や家族の状況について
- からだを動かすことについて
- 食べることについて
- 毎日の生活について
- 地域での活動について
- たすけあいについて
- 健康について
- 認知症に関する相談窓口について

(2) 調査結果の概要

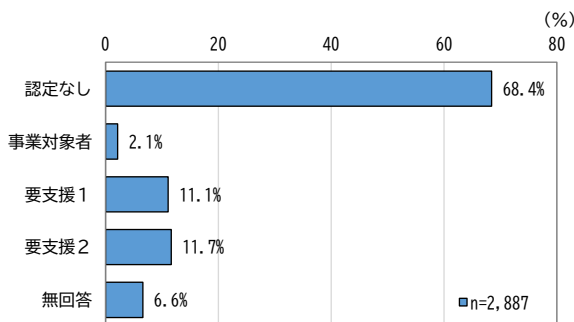
①基本属性

【要介護度】

「認定なし」が68.4%で最も高く、次いで「要支援2」が11.7%、「要支援1」が11.1%の順となっています。

性・年代別にみると、“女性-後期高齢者”では「要支援1」「要支援2」の割合がそれぞれ約2割を占めています。

図表2-17 要介護度（性・年代別、日常生活圏域別）



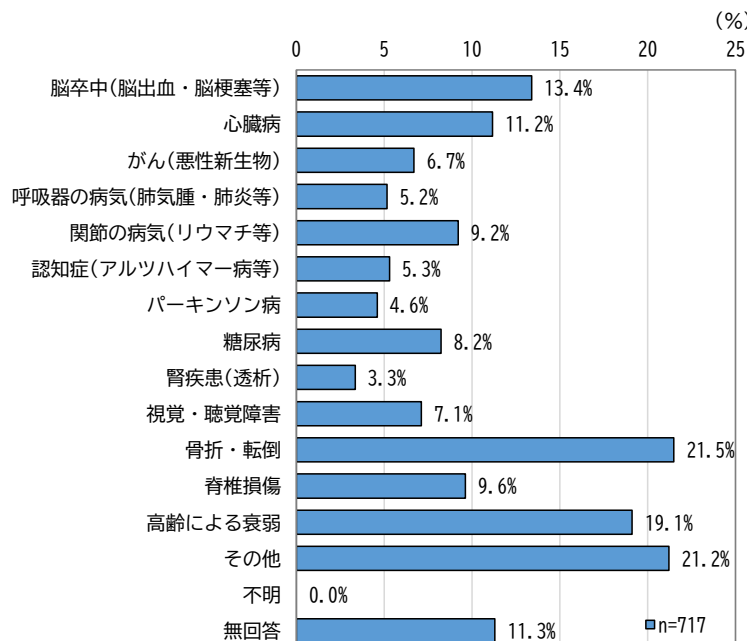
上段:実数(人) 下段:割合(%)	合計	要介護度					
		認定なし	事業対象者	要支援1	要支援2	無回答	
全体	2887 100.0	1976 68.4	62 2.1	321 11.1	337 11.7	191 6.6	
性・年代別	男性-前期高齢者	496 100.0	442 89.1	1 0.2	18 3.6	17 3.4	18 3.6
	男性-後期高齢者	713 100.0	467 65.5	21 2.9	82 11.5	95 13.3	48 6.7
	女性-前期高齢者	583 100.0	524 89.9	4 0.7	19 3.3	21 3.6	15 2.6
	女性-後期高齢者	1018 100.0	522 51.3	36 3.5	196 19.3	187 18.4	77 7.6
	第1圏域	624 100.0	425 68.1	19 3.0	60 9.6	79 12.7	41 6.6
	第2圏域	601 100.0	410 68.2	7 1.2	68 11.3	72 12.0	44 7.3
日常生活圏域	第3圏域	821 100.0	549 66.9	11 1.3	103 12.5	113 13.8	45 5.5
	第4圏域	772 100.0	566 73.3	24 3.1	82 10.6	71 9.2	29 3.8

②本人や家族の状況について

【介護・介助が必要になった原因】(「介護・介助は必要ない」以外の方のみ)

「骨折・転倒」が21.5%で最も高く、次いで「その他」が21.2%、「高齢による衰弱」が19.1%の順となっています。なお、その他の内容では「足腰の病気、痛み（股関節炎、脊柱管狭窄症、人工関節など）」が多くなっています。

図表2-18 介護・介助が必要になった原因



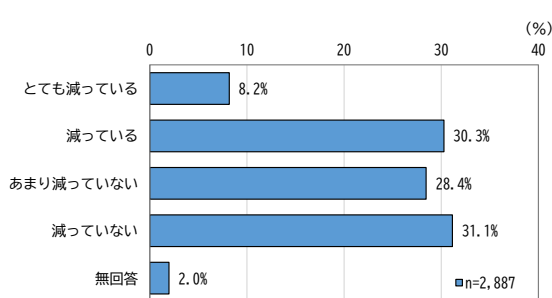
③からだを動かすことについて

【外出頻度】

昨年と比べた外出頻度は、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』が38.5%、「あまり減っていない」と「減っていない」を合わせた『減っていない』が59.5%となっています。

性・年代別にみると、“女性-後期高齢者”では『減っている』が過半数となり、他と比べて高くなっている他、要介護度別にみると、『減っている』の割合は介護度が上がるにつれて高くなっており、“要支援2”で約7割となっています。

図表2-19 外出頻度（性・年代別、日常生活圏域別、要介護度別）

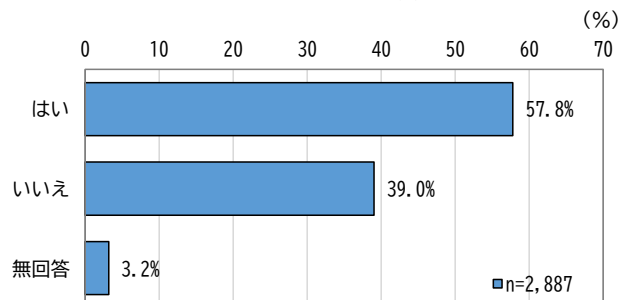


上段:実数(人) 下段:割合(%)	合計	Q2(7).昨年と比べた外出頻度					
		とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答	
全体	2887 100.0	236 8.2	874 30.3	821 28.4	899 31.1	57 2.0	
性・年代別	男性-前期高齢者	496 100.0	19 3.8	98 19.8	139 28.0	239 48.2	1 0.2
	男性-後期高齢者	713 100.0	56 7.9	223 31.3	188 26.4	226 31.7	20 2.8
	女性-前期高齢者	583 100.0	30 5.1	137 23.5	192 32.9	216 37.0	8 1.4
	女性-後期高齢者	1018 100.0	121 11.9	395 38.8	276 27.1	200 19.6	26 2.6
日常生活圏域	第1圏域	624 100.0	55 8.8	191 30.6	174 27.9	192 30.8	12 1.9
	第2圏域	601 100.0	56 9.3	190 31.6	155 25.8	187 31.1	13 2.2
	第3圏域	821 100.0	66 8.0	250 30.5	249 30.3	236 28.7	20 2.4
	第4圏域	772 100.0	53 6.9	221 28.6	220 28.5	268 34.7	10 1.3
要介護度	認定なし	1976 100.0	88 4.5	471 23.8	609 30.8	773 39.1	35 1.8
	事業対象者	62 100.0	6 9.7	26 41.9	19 30.6	8 12.9	3 4.8
	要支援1	321 100.0	53 16.5	148 46.1	75 23.4	37 11.5	8 2.5
	要支援2	337 100.0	59 17.5	170 50.4	64 19.0	36 10.7	8 2.4

【運動習慣】

運動を週に1回以上しているかについては、「はい」が約6割を占めています。

図表2-20 運動習慣



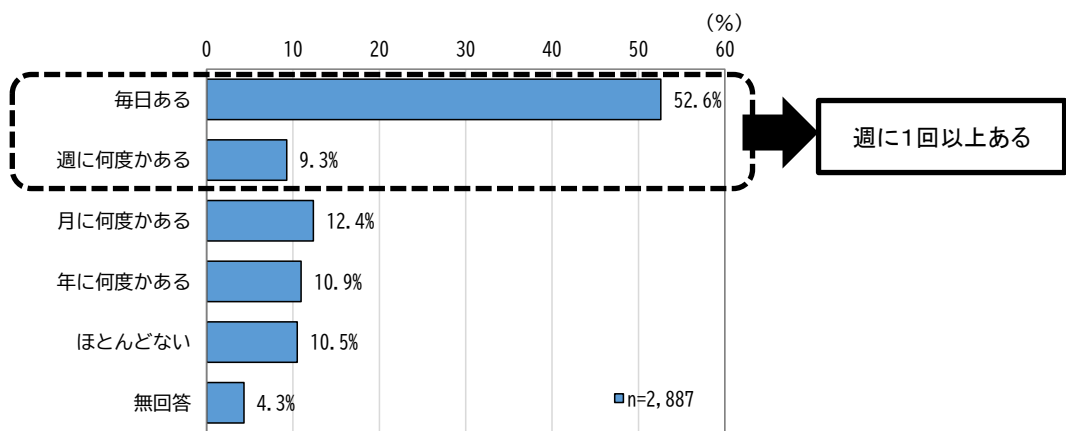
④食べることについて

【誰かと食事をとる機会】

「毎日ある」が52.6%で最も高く、次いで「月に何度かある」が12.4%、「年に何度かある」が10.9%の順となっています。「毎日ある」と「週に何度かある」を合わせた『週に1回以上ある』が61.9%となっています。

性・年代別にみると、“男性-後期高齢者”では「ほとんどない」が15.6%となり、他と比べて高くなっている他、要介護度別にみると、「毎日ある」の割合は、要介護度が上がるにつれて低くなっています。

図表2-21 誰かと食事をとる機会
(性・年代別、日常生活圏域別、要介護度別、閉じこもり傾向別)



上段:実数(人) 下段:割合(%)	合計	Q3(9).誰かと食事をとる機会							
		毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答		
全体	2887 100.0	1518 52.6	268 9.3	357 12.4	316 10.9	303 10.5	125 4.3		
性・年代別	男性-前期高齢者	496 100.0	302 60.9	39 7.9	38 7.7	56 11.3	42 8.5	19 3.8	
	男性-後期高齢者	713 100.0	382 53.6	30 4.2	58 8.1	95 13.3	111 15.6	37 5.2	
	女性-前期高齢者	583 100.0	387 66.4	50 8.6	62 10.6	45 7.7	27 4.6	12 2.1	
	女性-後期高齢者	1018 100.0	418 41.1	140 13.8	192 18.9	107 10.5	108 10.6	53 5.2	
	日常生活圏域	第1圏域	624 100.0	289 46.3	73 11.7	75 12.0	73 11.7	85 13.6	29 4.6
		第2圏域	601 100.0	323 53.7	48 8.0	76 12.6	68 11.3	54 9.0	32 5.3
第3圏域		821 100.0	394 48.0	79 9.6	118 14.4	91 11.1	95 11.6	44 5.4	
第4圏域		772 100.0	480 62.2	60 7.8	80 10.4	74 9.6	62 8.0	16 2.1	
要介護度	認定なし	1976 100.0	1130 57.2	167 8.5	228 11.5	216 10.9	166 8.4	69 3.5	
	事業対象者	62 100.0	32 51.6	5 8.1	8 12.9	4 6.5	10 16.1	3 4.8	
	要支援1	321 100.0	132 41.1	33 10.3	51 15.9	41 12.8	43 13.4	21 6.5	
	要支援2	337 100.0	135 40.1	44 13.1	45 13.4	35 10.4	56 16.6	22 6.5	
	閉じこもり傾向	該当	601 100.0	297 49.4	46 7.7	74 12.3	66 11.0	89 14.8	29 4.8
非該当		2214 100.0	1196 54.0	216 9.8	271 12.2	243 11.0	205 9.3	83 3.7	

⑤毎日の生活について

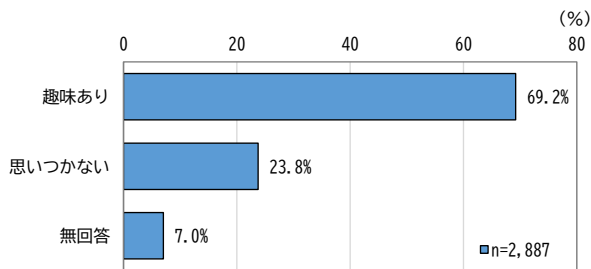
【趣味、生きがい】

「趣味あり」が69.2%、「生きがいあり」が54.1%となっています。

趣味については、介護度が上がるにつれて「思いつかない」の割合が高くなっています。

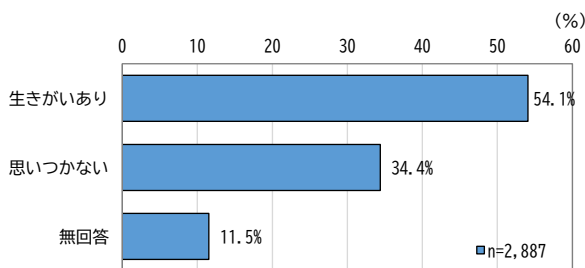
生きがいについては、“男性-後期高齢者”では「思いつかない」が4割以上で、他と比べて高い他、要介護度別にみると、“認定なし”を除き、「思いつかない」が最も高くなっています。

図表 2-22 趣味（性・年代別、日常生活圏域別）



上段:実数(人) 下段:割合(%)	合計	Q4(18).趣味はあるか			
		趣味あり	思いつかない	無回答	
全体	2887 100.0	1998 69.2	686 23.8	203 7.0	
性・年代別	男性-前期高齢者	496 100.0	373 75.2	102 20.6	21 4.2
	男性-後期高齢者	713 100.0	465 65.2	195 27.3	53 7.4
	女性-前期高齢者	583 100.0	448 76.8	107 18.4	28 4.8
	女性-後期高齢者	1018 100.0	667 65.5	255 25.0	96 9.4
要介護度	認定なし	1976 100.0	1490 75.4	372 18.8	114 5.8
	事業対象者	62 100.0	36 58.1	21 33.9	5 8.1
	要支援1	321 100.0	177 55.1	117 36.4	27 8.4
	要支援2	337 100.0	179 53.1	125 37.1	33 9.8

図表 2-23 生きがい（性・年代別、日常生活圏域別）

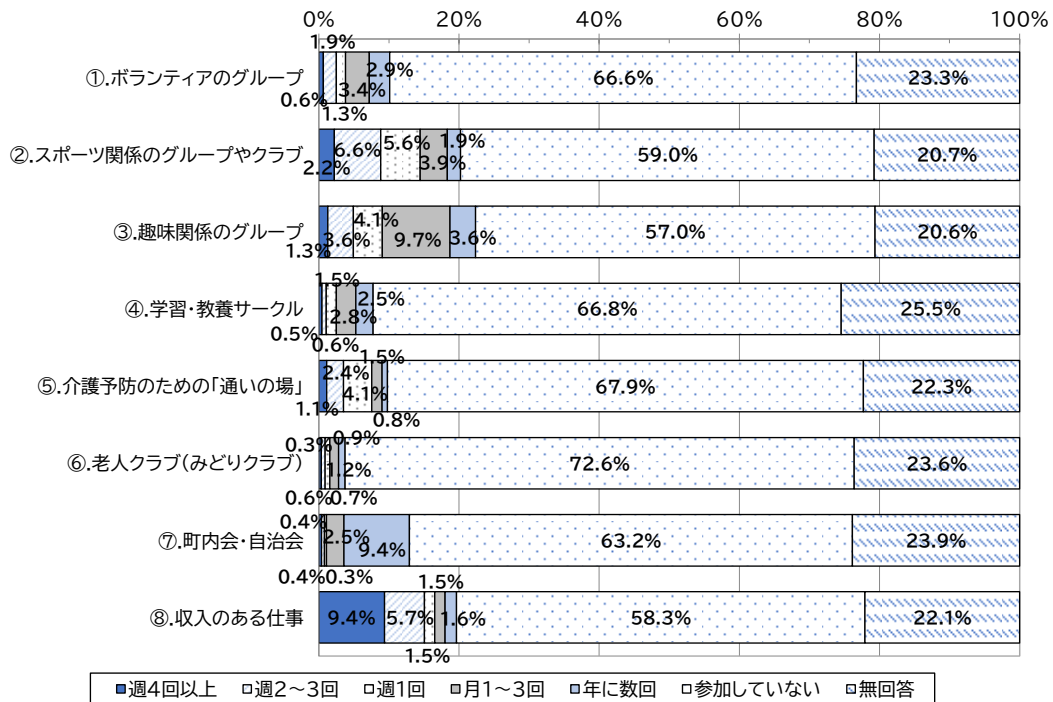


上段:実数(人) 下段:割合(%)	合計	Q4(19).生きがいはあるか			
		生きがいあり	思いつかない	無回答	
全体	2887 100.0	1561 54.1	993 34.4	333 11.5	
性・年代別	男性-前期高齢者	496 100.0	296 59.7	172 34.7	28 5.6
	男性-後期高齢者	713 100.0	337 47.3	290 40.7	86 12.1
	女性-前期高齢者	583 100.0	379 65.0	162 27.8	42 7.2
	女性-後期高齢者	1018 100.0	507 49.8	343 33.7	168 16.5
要介護度	認定なし	1976 100.0	1180 59.7	612 31.0	184 9.3
	事業対象者	62 100.0	24 38.7	29 46.8	9 14.5
	要支援1	321 100.0	137 42.7	145 45.2	39 12.1
	要支援2	337 100.0	125 37.1	153 45.4	59 17.5

【会・グループへの参加頻度】

「週4回以上」、「週2～3回」および「週1回」を合わせた『週1回以上』で比較すると、「⑧.収入のある仕事」が16.6%で最も高く、次いで「②.スポーツ関係のグループやクラブ」が14.4%、「③.趣味関係のグループ」が9.0%となっています。

図表2-24 会・グループへの参加頻度

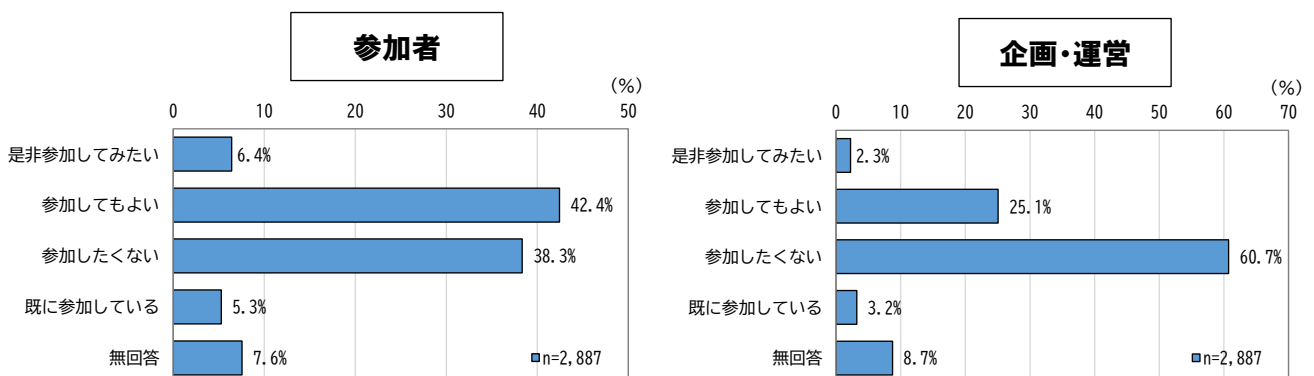


【地域づくり活動への参加意向】

地域づくりの活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」が42.4%で最も高く、次いで「参加したくない」が38.3%、「是非参加してみたい」が6.4%となっています。「是非参加してみたい」と「参加してもよい」を合わせた『参加してもよい』は48.8%となっています。

地域づくりの活動への企画・運営としての参加意向は、「参加したくない」が60.7%で最も高く、次いで「参加してもよい」が25.1%、「既に参加している」が3.2%となっています。「是非参加してみたい」と「参加してもよい」を合わせた『参加してもよい』は27.4%となっています。

図表2-25 地域づくり活動への参加意向



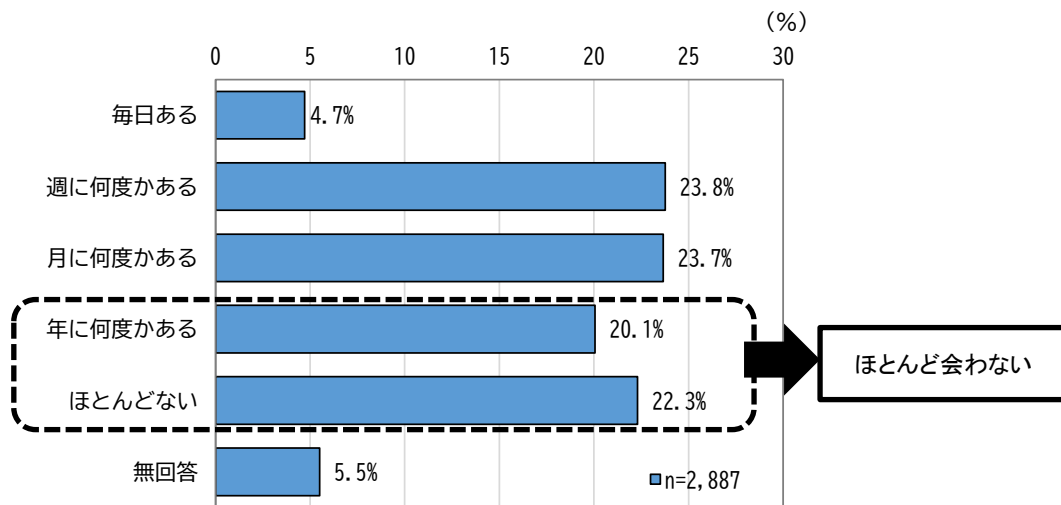
⑥たすけあいについて

【友人・知人と会う頻度】

「週に何度かある」が23.8%で最も高く、次いで「月に何度かある」が23.7%、「ほとんどない」が22.3%となっています。「年に何度かある」と「ほとんどない」を合わせた『ほとんど会わない』が42.4%となっています。

性・年代別にみると、『ほとんど会わない』の割合は“女性”に比べて“男性”が高く、“前期・後期高齢者”ともに約半数となっています。また、要介護度別にみると、“認定なし”を除き『ほとんど会わない』が過半数となっています。

図表 2-26 友人知人と会う頻度（性・年代別、日常生活圏域別、要介護度別）



上段:実数(人) 下段:割合(%)	合計	Q6(6).友人・知人と会う頻度						
		毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答	
全体	2887 100.0	136 4.7	686 23.8	683 23.7	579 20.1	644 22.3	159 5.5	
性・年代別	男性-前期高齢者	496 100.0	30 6.0	88 17.7	122 24.6	151 30.4	91 18.3	14 2.8
	男性-後期高齢者	713 100.0	28 3.9	124 17.4	138 19.4	147 20.6	236 33.1	40 5.6
	女性-前期高齢者	583 100.0	32 5.5	170 29.2	171 29.3	117 20.1	66 11.3	27 4.6
	女性-後期高齢者	1018 100.0	42 4.1	286 28.1	246 24.2	152 14.9	219 21.5	73 7.2
日常生活圏域	第1圏域	624 100.0	29 4.6	146 23.4	162 26.0	117 18.8	133 21.3	37 5.9
	第2圏域	601 100.0	36 6.0	147 24.5	146 24.3	108 18.0	122 20.3	42 7.0
	第3圏域	821 100.0	36 4.4	199 24.2	190 23.1	160 19.5	194 23.6	42 5.1
	第4圏域	772 100.0	30 3.9	185 24.0	176 22.8	180 23.3	170 22.0	31 4.0
要介護度	認定なし	1976 100.0	110 5.6	512 25.9	508 25.7	405 20.5	353 17.9	88 4.5
	事業対象者	62 100.0	3 4.8	10 16.1	14 22.6	13 21.0	19 30.6	3 4.8
	要支援1	321 100.0	6 1.9	44 13.7	81 25.2	60 18.7	105 32.7	25 7.8
	要支援2	337 100.0	2 0.6	78 23.1	48 14.2	62 18.4	122 36.2	25 7.4

⑦健康について

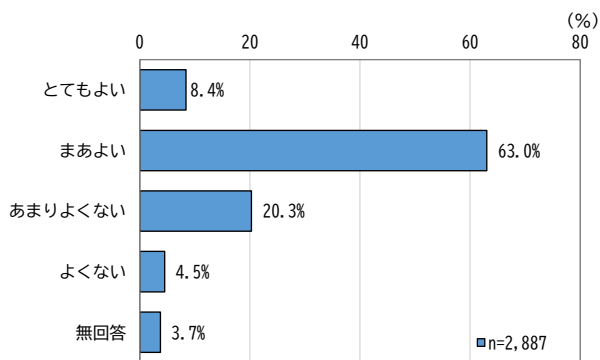
【主観的健康感】

主観的健康感は、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』が71.4%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』が24.8%となっています。

趣味・生きがいの有無別にみると、“趣味・生きがい”のある人の方が、“思いつかない”人に比べて『よい』の割合が17～19ポイント高くなっている他、友人・知人と会う頻度別が多くなるほど、『よい』の割合が高くなっています。

図表2-27 主観的健康感

(性・年代別、要介護度別、趣味・生きがいの有無別、友人・知人と会う頻度別)



上段:実数(人) 下段:割合(%)	合計	Q7(1).主観的健康観					
		とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答	
全体	2887 100.0	242 8.4	1820 63.0	586 20.3	131 4.5	108 3.7	
性・年代別	男性-前期高齢者	496 100.0	51 10.3	350 70.6	73 14.7	12 2.4	10 2.0
	男性-後期高齢者	713 100.0	65 9.1	392 55.0	181 25.4	40 5.6	35 4.9
	女性-前期高齢者	583 100.0	63 10.8	428 73.4	68 11.7	10 1.7	14 2.4
	女性-後期高齢者	1018 100.0	56 5.5	613 60.2	238 23.4	64 6.3	47 4.6
	認定なし	1976 100.0	213 10.8	1385 70.1	284 14.4	35 1.8	59 3.0
要介護度	事業対象者	62 100.0	1 1.6	28 45.2	23 37.1	7 11.3	3 4.8
	要支援1	321 100.0	4 1.2	168 52.3	96 29.9	34 10.6	19 5.9
	要支援2	337 100.0	5 1.5	131 38.9	141 41.8	43 12.8	17 5.0
	趣味あり	1998 100.0	209 10.5	1322 66.2	344 17.2	62 3.1	61 3.1
趣味	思いつかない	686 100.0	22 3.2	372 54.2	204 29.7	54 7.9	34 5.0
	生きがいあり	1561 100.0	197 12.6	1032 66.1	246 15.8	42 2.7	44 2.8
生きがい	思いつかない	993 100.0	30 3.0	579 58.3	281 28.3	67 6.7	36 3.6
	毎日ある	136 100.0	32 23.5	86 63.2	12 8.8	2 1.5	4 2.9
友人・知人と会う頻度	週に何度かある	686 100.0	71 10.3	491 71.6	105 15.3	8 1.2	11 1.6
	月に何度かある	683 100.0	63 9.2	456 66.8	126 18.4	20 2.9	18 2.6
	年に何度かある	579 100.0	41 7.1	384 66.3	127 21.9	21 3.6	6 1.0
	ほとんどない	644 100.0	29 4.5	335 52.0	194 30.1	74 11.5	12 1.9

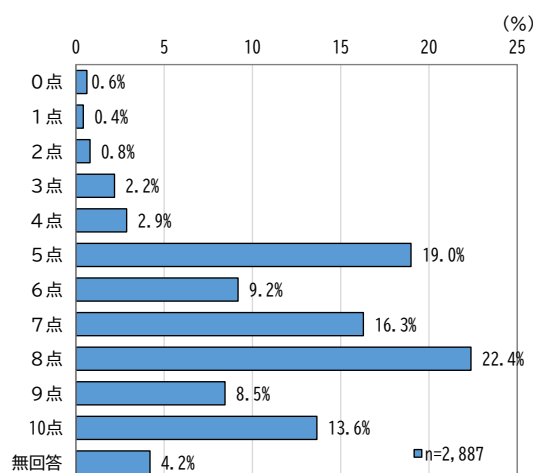
【主観的幸福感】

主観的幸福感は、「8点」が22.4%で最も高く、次いで「5点」が19.0%、「7点」が16.3%となっています。なお、全体の平均は『7.1点』となっています。

趣味・生きがいの有無別にみると、“趣味・生きがい”のある人の方が、“思いつかない”人に比べて平均はいずれも高くなっています。また、友人・知人と会う頻度が高くなるほど平均も高くなっており、“毎日ある”人では7.9点となっています。さらに、主観的健康感が高い人ほど、主観的幸福感の平均も高くなっており、“とてもよい”人は“よくない”人と比べて3.7点高い8.6点となっています。

図表 2-28 主観的幸福感

(趣味・生きがいの有無別、友人・知人と会う頻度別、主観的健康観別)



上段:実数(人) 下段:割合(%)	合計	Q7(2).主観的幸福感											平均	
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点		無回答
全体	2887	18	12	23	63	83	548	265	470	646	244	394	121	7.1
	100.0	0.6	0.4	0.8	2.2	2.9	19.0	9.2	16.3	22.4	8.5	13.6	4.2	
趣味	趣味あり	1998	8	12	32	50	291	167	351	516	198	306	59	7.3
	100.0	0.4	0.4	0.6	1.6	2.5	14.6	8.4	17.6	25.8	9.9	15.3	3.0	
趣味	思いつかない	686	9	1	11	24	26	204	78	97	101	33	63	6.3
	100.0	1.3	0.1	1.6	3.5	3.8	29.7	11.4	14.1	14.7	4.8	9.2	5.7	
生きがい	生きがいあり	1561	3	3	4	12	31	172	113	274	439	183	286	7.7
	100.0	0.2	0.2	0.3	0.8	2.0	11.0	7.2	17.6	28.1	11.7	18.3	2.6	
生きがい	思いつかない	993	13	7	16	43	44	305	118	152	148	42	62	6.1
	100.0	1.3	0.7	1.6	4.3	4.4	30.7	11.9	15.3	14.9	4.2	6.2	4.3	
友人・知人と会う頻度	毎日ある	136	1	0	0	1	5	18	3	17	34	12	42	7.9
	100.0	0.7	0.0	0.0	0.7	3.7	13.2	2.2	12.5	25.0	8.8	30.9	2.2	
	週に何度かある	686	0	0	0	8	17	92	62	121	162	78	135	7.6
	100.0	0.0	0.0	0.0	1.2	2.5	13.4	9.0	17.6	23.6	11.4	19.7	1.6	
	月に何度かある	683	1	0	6	7	16	115	65	125	198	68	70	7.2
100.0	0.1	0.0	0.9	1.0	2.3	16.8	9.5	18.3	29.0	10.0	10.2	1.8		
友人・知人と会う頻度	年に何度かある	579	1	2	5	12	18	128	64	103	133	48	55	6.9
	100.0	0.2	0.3	0.9	2.1	3.1	22.1	11.1	17.8	23.0	8.3	9.5	1.7	
	ほとんどない	644	15	10	12	31	26	177	61	91	93	33	71	6.2
100.0	2.3	1.6	1.9	4.8	4.0	27.5	9.5	14.1	14.4	5.1	11.0	3.7		
主観的健康観	とてもよい	242	1	0	1	0	1	14	5	26	56	26	109	8.6
	100.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	5.8	2.1	10.7	23.1	10.7	45.0	1.2	
	まあよい	1820	8	4	9	17	36	311	167	338	485	175	239	7.3
	100.0	0.4	0.2	0.5	0.9	2.0	17.1	9.2	18.6	26.6	9.6	13.1	1.7	
主観的健康観	あまりよくない	586	0	3	5	26	37	173	78	92	87	35	31	6.2
	100.0	0.0	0.5	0.9	4.4	6.3	29.5	13.3	15.7	14.8	6.0	5.3	3.2	
主観的健康観	よくない	131	9	5	8	16	6	41	6	9	8	4	9	4.9
	100.0	6.9	3.8	6.1	12.2	4.6	31.3	4.6	6.9	6.1	3.1	6.9	7.6	

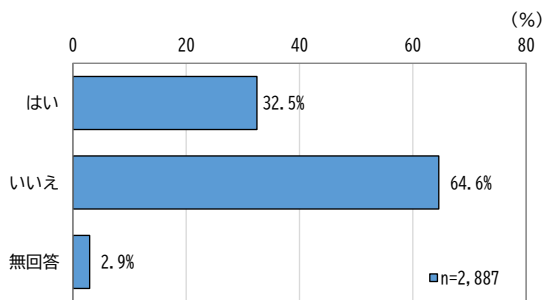
⑧認知症に関する相談窓口について

【認知症に関する相談窓口の認知度】

認知症に関する相談窓口を知っている人は約3割となっています。

本人または家族の認知症の症状の有無別にみると、認知症の症状がある人の認知症の相談窓口の認知度は約5割となっています。

図表2-29 認知症に関する相談窓口の認知度（認知症の症状の有無別）



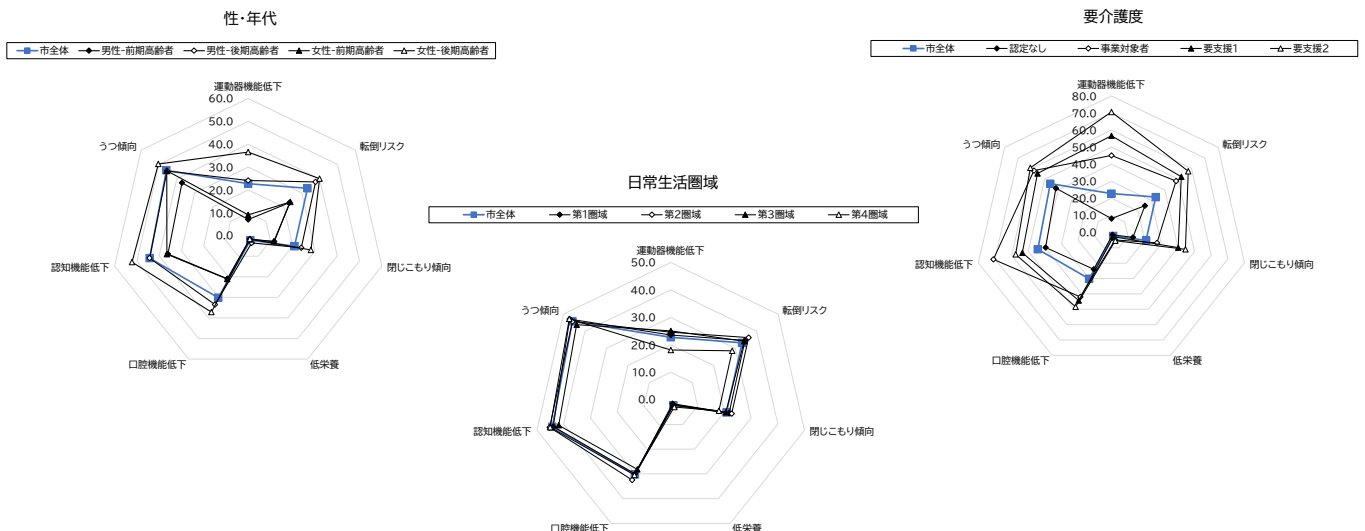
上段:実数(人) 下段:割合(%)	合計	Q8(2).認知症に関する相談窓口の認知度			
		はい	いいえ	無回答	
全体	2887	938	1864	85	
	100.0	32.5	64.6	2.9	
認知症の症状の有無	はい	332	180	145	7
		100.0	54.2	43.7	2.1
いいえ	2502	750	1696	56	
	100.0	30.0	67.8	2.2	

⑨生活機能評価

生活機能の評価項目ごとの該当者（リスクあり）の割合をみると、市全体では「うつ傾向」が45.8%で最も高く、次いで「認知機能低下」が44.3%、「転倒リスク」が33.2%の順となっています。

図表2-30 生活機能評価による該当者の割合（性・年代別、日常生活圏域別、要介護度別）

	市全体	性・年齢				日常生活圏域				要介護度			
		男性-前期高齢者	男性-後期高齢者	女性-前期高齢者	女性-後期高齢者	第1圏域	第2圏域	第3圏域	第4圏域	認定なし	事業対象者	要支援1	要支援2
運動器機能低下	22.8	7.1	24.1	9.1	36.5	23.6	24.6	25.1	18.1	8.1	45.2	56.7	70.6
転倒リスク	33.2	23.2	37.7	23.7	40.0	34.6	36.3	34.2	28.6	25.1	48.4	52.3	57.6
閉じこもり傾向	20.8	11.7	23.8	11.5	28.2	21.8	22.8	20.6	18.0	13.0	27.4	40.2	44.5
低栄養	2.3	1.6	3.5	1.9	1.7	1.6	2.2	1.9	3.0	1.5	4.8	2.8	5.3
口腔機能低下	30.2	21.0	33.5	21.1	37.1	30.0	32.4	28.1	30.4	24.0	41.9	44.2	48.4
認知機能低下	44.3	36.1	44.3	36.5	52.2	43.9	45.3	41.9	45.1	39.6	71.0	53.6	57.6
うつ傾向	45.8	37.1	45.4	45.6	50.3	47.1	45.8	43.8	47.3	41.6	58.1	55.5	60.8



3 在宅介護実態調査結果

(1) 調査概要

①調査の目的

在宅介護実態調査は、本計画の策定にあたり、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスの在り方を把握することを目的に実施したものです。

②実施概要

調査名	対象者	回収数	参考： 前回調査 (令和2年) 回収数
在宅介護実態調査	在宅で生活する要支援・要介護認定を受けている市内に居住する65歳以上の高齢者	602人	597人

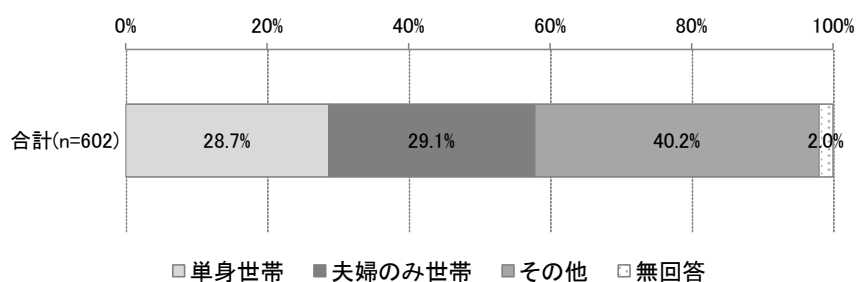
【調査方法】 要支援・要介護認定の訪問調査時に併せて認定調査員が実施
【調査期間】 令和4年9月～令和5年6月

(2) 調査結果の概要

①世帯類型

回答者の世帯類型は、「その他」が40.2%で最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が29.1%、「単身世帯」が28.7%となっています。

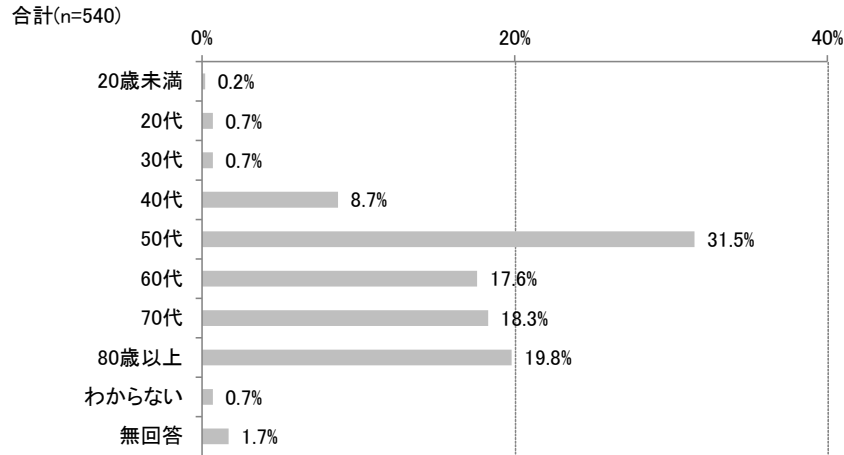
図表 2-31 世帯類型



②主な介助者の年齢

家族や親族から介護を受けている方の主な介助者の年齢は、「50代」が31.5%で最も高く、次いで「80歳以上」が19.8%、「70代以上」が18.3%となっています。なお、60代以降と回答した人が過半数となっています。

図表 2-32 主な介助者の年齢

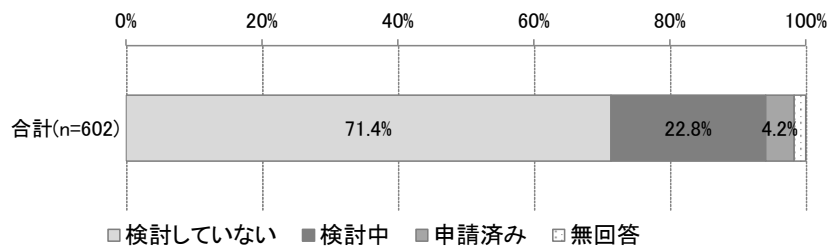


③施設等の検討状況

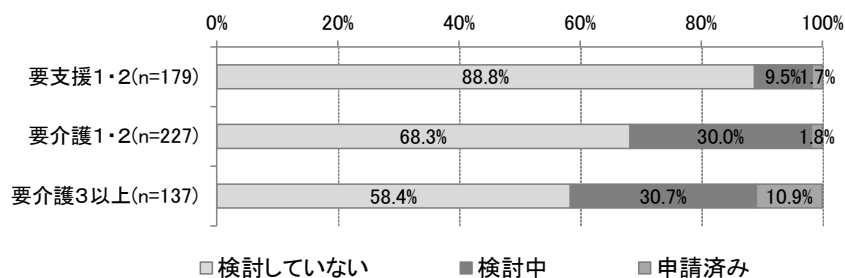
「検討していない」が71.4%となっています。

要介護度別にみると、介護度が上がるにつれて検討中の割合が増加し、“要介護3以上”では「検討中」が約3割、「申請済み」が約1割となっています。

図表 2-33 施設等の検討状況



図表 2-34 施設等の検討状況（要介護度別）

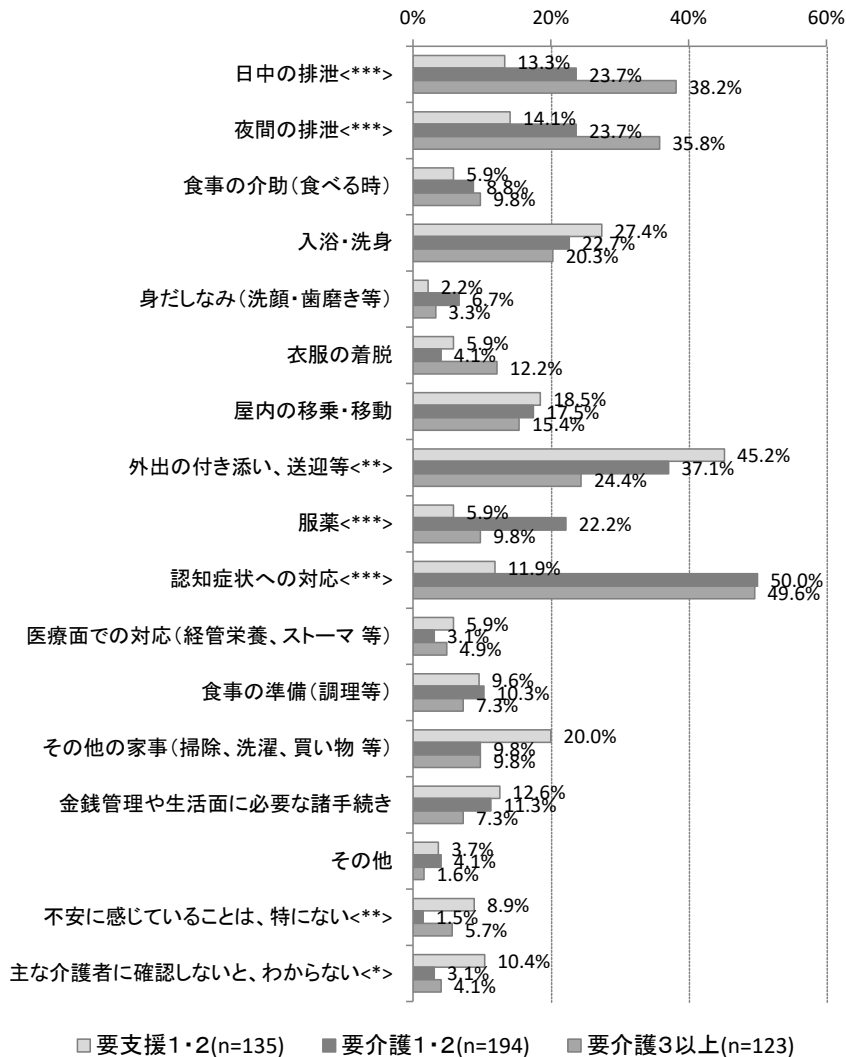


④主な介助者の状況

【介護者が不安に思う介護】

介護者が不安に思う介護は、“要支援1・2”では「外出の付き添い、送迎等」、要介護1以上では「認知症への対応」が最も高くなっています。また、「日中の排泄」「夜間の排泄」については、介護度が上がるにつれて、不安感が増加していることが分かります。

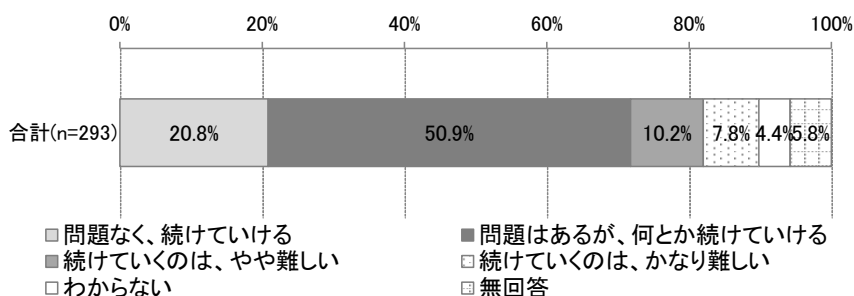
図表2-35 介護者が不安に思う介護（要介護度別）



【主な介護者の就労継続の可否に係る意識】

「問題はあるが、何とか続けていける」が約半数となっています。一方、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた『難しい』が18.0%となっています。

図表2-36 主な介護者の就労継続の可否に係る意識



4 「将来の備え（終活）」をおこなうことについてのアンケート調査結果

(1) 調査概要

①調査の目的

高齢者やその家族にとって大きな負担となる医療や介護、亡くなった時等の様々な手続きについて、市民の日頃の備えの程度を把握することで、今後の政策立案に役立てるものです。

②実施概要

調査名	対象者	配布数	回収数	回収率
「将来の備え（終活）」をおこなうことへのアンケート調査	市内在住の50歳以上の方	3,500人	1,497人	42.8%

【調査方法】 郵送による配布・回収
 【抽出基準日】 令和4年12月1日
 【調査期間】 令和5年1月11日（水）～1月25日（水）

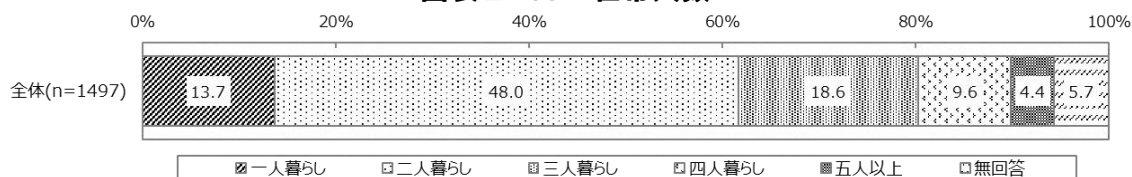
(2) 調査結果の概要

①回答者の属性

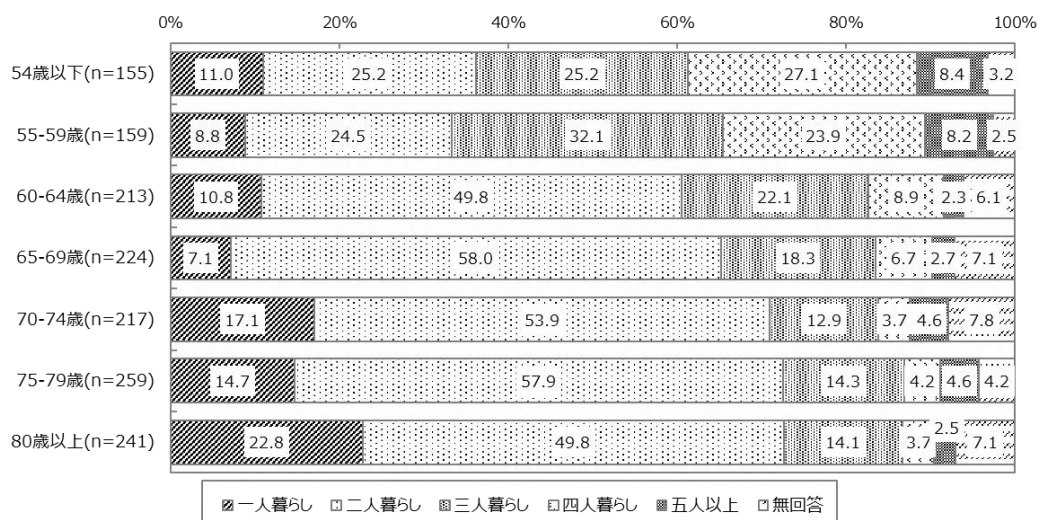
【世帯人数】

「二人暮らし」が48.0%で最も高くなっています。全体の13.7%が「一人暮らし」となっています。

図表2-37 世帯人数



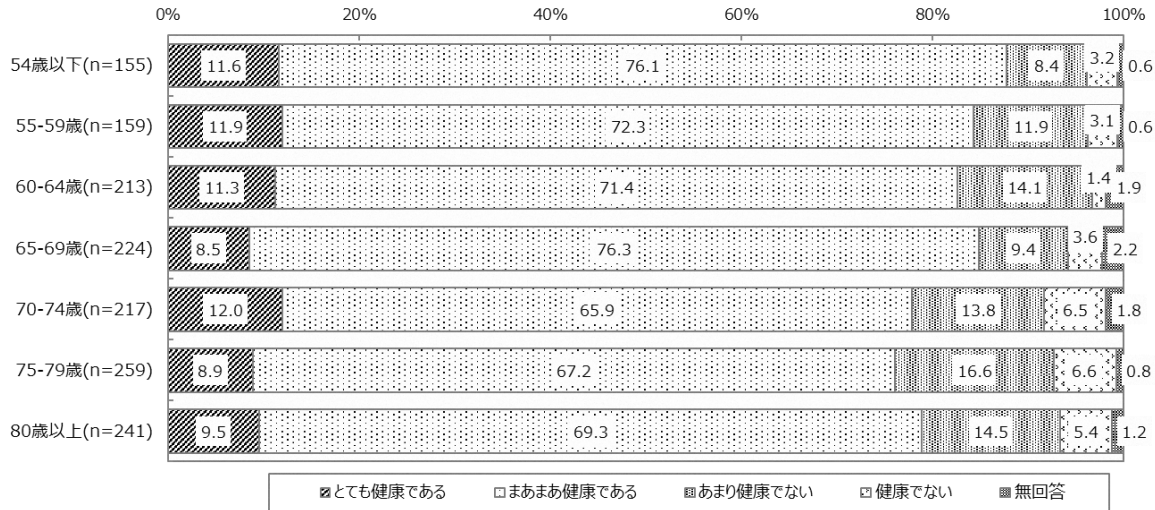
図表2-38 世帯人数（年齢別）



②現在の健康状態

高齢であっても、7割以上の方が『健康』と回答しています。

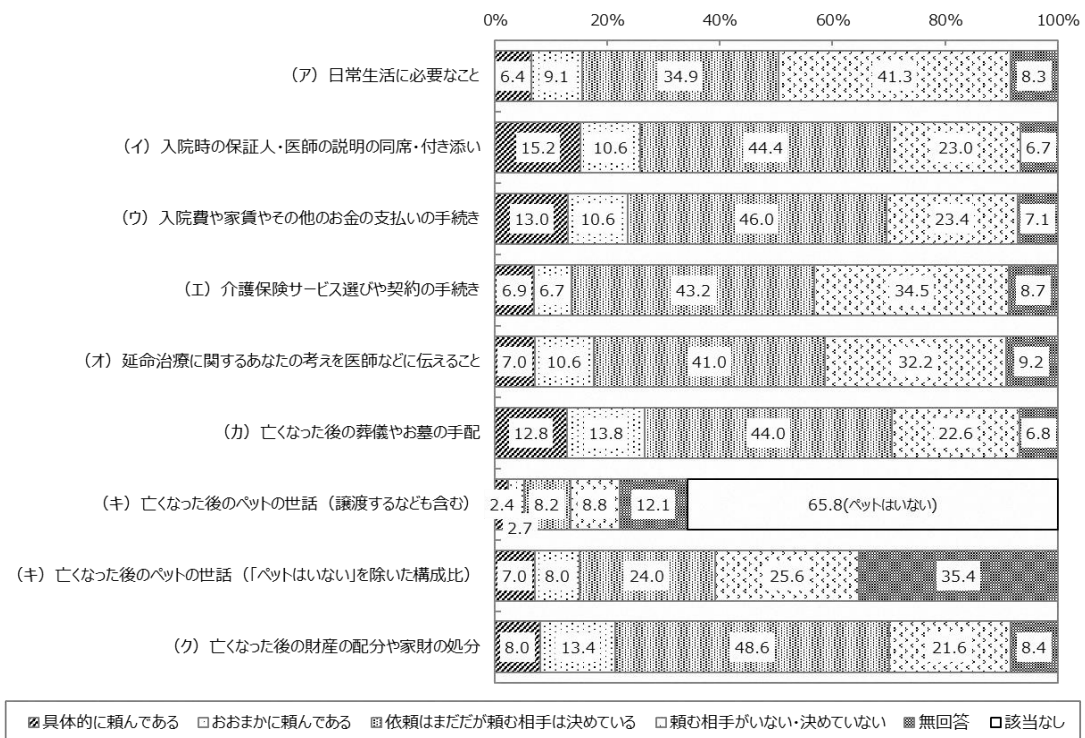
図表 2-39 現在の健康状態（年齢別）



③将来の備え

依頼してあると回答した人は3割未満で、4割程度は頼む相手は決めているが依頼がまだと回答しています。また、2～4割は頼む相手がいない・決めていないと回答しています。

図表 2-40 将来の備え

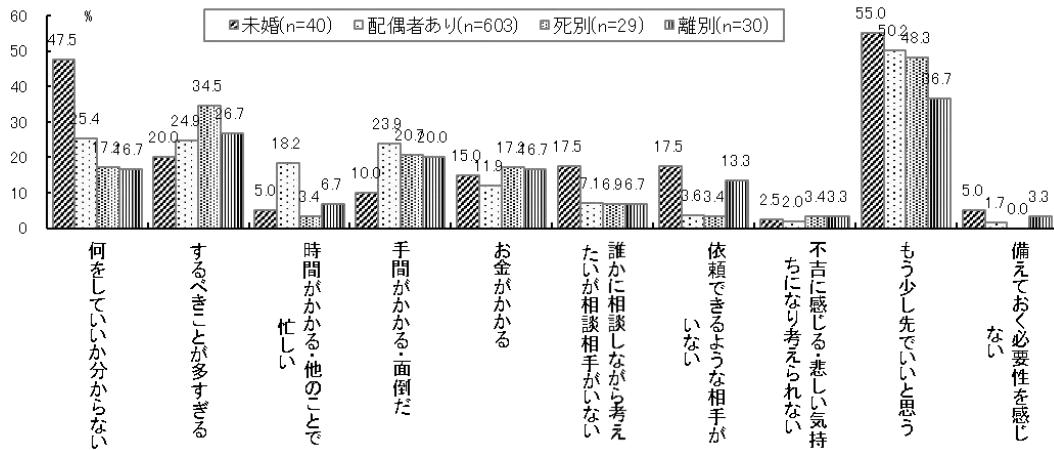


(n=1497, ただし「ペットはいない」を除いたものはn=512)

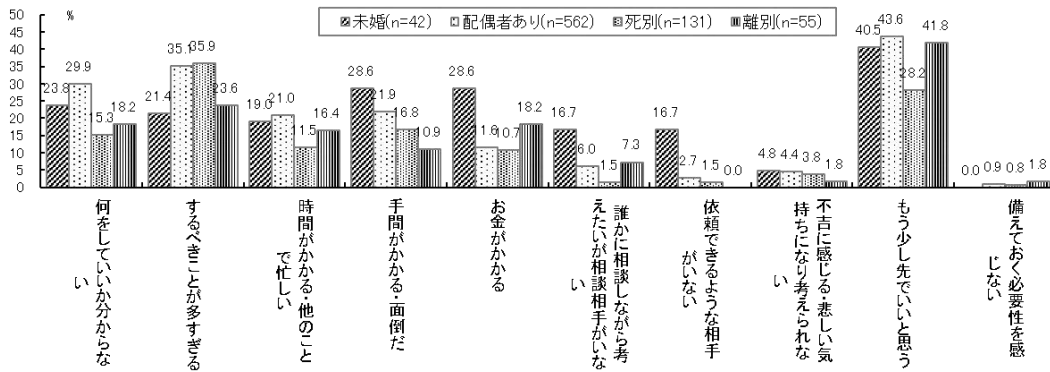
④ 備えをする時に難しい点

多くの方は「もう少し先でいいと思う」「すべきことが多すぎる」と回答しています。婚姻状況別にみると、未婚の男性は「何をしたいかわからない」「もう少し先でいい」、離別の男性は「依頼できるような相手がいない」、未婚の女性では「手間・お金がかかる」が高くなっています。

図表 2-41 【男性】 備えをする時に難しい点（婚姻状況別）



図表 2-42 【女性】 備えをする時に難しい点（婚姻状況別）

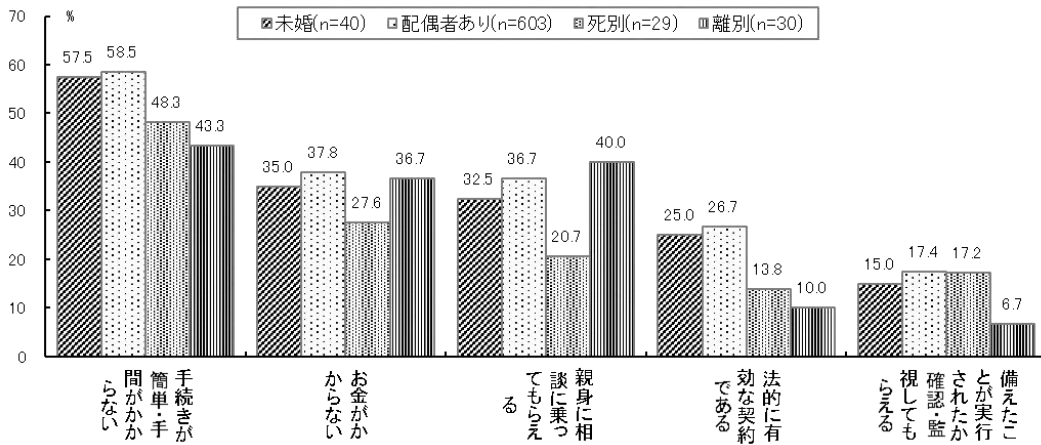


⑤備える時に重視する点

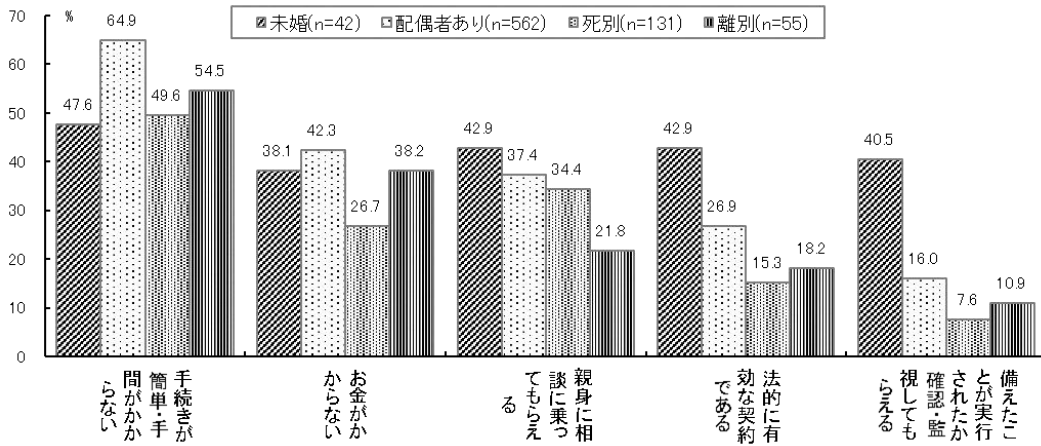
全体として、「手続きが簡単・手間がかからない」ことを重視する人が多くなっています。

婚姻状況別にみると、離別した男性では「親身に相談に乗ってもらえる」、未婚の女性では「法的に有効な契約である」、「備えたことが実行されたか確認・監視してもらえる」の割合が高くなっています。

図表 2-43 【男性】備える時に重視する点（婚姻状況別）



図表 2-44 【女性】備える時に重視する点（婚姻状況別）

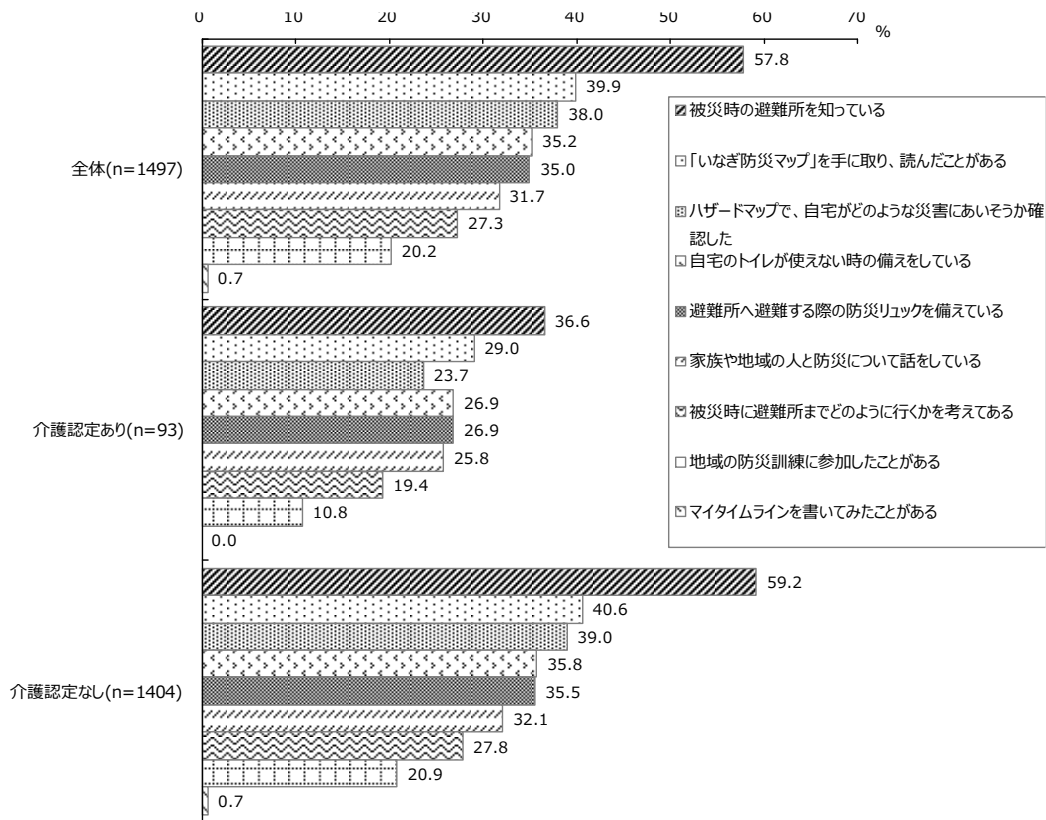


⑥防災意識

避難場所は6割程度の人が認識していたが、介護認定のある人では4割未満となっています。また、具体的な行動計画はほとんどの人が持っていませんでした。

地区別に見ると、押立地区は5項目で4割以上が備えていると回答しており、向陽台地区では4項目で4割以上が備えていると回答しているのに対し、平尾地区では備えていると回答する割合が他地区と比較して全体的に低くなっています。

図表2-45 防災意識（要介護度別）



図表2-46 防災意識（地区別）

	矢野口 (n=238)	東長沼 (n=183)	大丸 (n=152)	百村 (n=84)	坂浜 (n=40)	平尾 (n=207)	押立 (n=52)	向陽台 (n=187)	長峰 (n=96)	若葉台 (n=202)
被災時の避難所を知っている	54.6	56.8	53.9	57.1	60.0	58.9	73.1	63.6	64.6	64.4
「いなぎ防災マップ」を手に取り、読んだことがある	42.0	47.0	46.7	34.5	47.5	34.3	44.2	46.0	36.5	35.1
ハザードマップで、自宅がどのような災害にあいそうか確認した	36.6	44.8	44.7	34.5	37.5	28.0	53.8	44.9	32.3	39.6
自宅のトイレが使えない時の備えをしている	33.6	35.0	25.0	35.7	32.5	27.1	28.8	46.5	49.0	46.5
避難所へ避難する際の防災リュックを備えている	36.1	39.9	28.9	39.3	27.5	29.5	44.2	38.5	36.5	40.6
家族や地域の人と防災について話をしている	29.8	30.1	36.8	34.5	30.0	24.6	42.3	39.6	28.1	37.1
被災時に避難所までどのように行くかを考えてある	25.2	24.0	27.0	23.8	30.0	25.6	30.8	35.3	32.3	32.7
地域の防災訓練に参加したことがある	12.2	13.7	13.8	8.3	27.5	21.3	15.4	34.2	33.3	30.2
マイタイムラインを書いてみたことがある	0.4	1.1	0.7	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	3.1	0.5

5 市内の高齢者の住まいのアンケート調査結果

(1) 調査概要

①調査の目的

高齢者の住まいであるサービス付き高齢者向け住宅や特定施設について、市内での利用状況を把握するために実施するものです。

②実施概要

調査名	調査対象	配布数	回収数	回収率
市内の高齢者の住まいのアンケート調査	・サービス付き高齢者向け住宅(3件) ・有料老人ホーム(4件) ・ケアハウス(1件) ・高齢者向け住宅(2件)	10件	10件	100%

【調査方法】 郵送による配布・回収

【基準日】 令和5年6月30日

【調査期間】 令和5年7月14日～8月10日

(2) 調査結果

性別にみると、男性は146人、女性は390人が高齢者の入居施設に住まわれており、男性に比べ女性の入居者は約2.7倍となっています。年齢別にみると後期高齢者(75歳以上)の方の入居が多い傾向となっており、男性は75歳～94歳、女性は80歳～94歳の割合が高くなっています。

要介護度別の状況をみると、高齢者向け住宅では自立した生活を営んでいる方が多いことがうかがえます。サービス付き高齢者向け住宅においては、介護度の高い方も入居されていることが分かり、介護サービスの利用等により有料老人ホームのような住まい方をされている方もいることが推測されます。

さらに保険者別、住民登録の状況別にみると、高齢者向け住宅では市内に住所を移し、保険者も稲城市になっているケースがほとんどであることが推測されますが、保険者別人数を確認すると、他の住まいにおいては、市民が移り住むよりも、他市から流入してくる方のほうが多いことがうかがえます。特に、サービス付き高齢者向け住宅については、遠方から入居に至っているケースが50件以上あることが分かります。

図表2-47 市内の高齢者の住まいのアンケート調査結果

【性別・年齢別】

種別／ 年齢	男性									女性								
	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100～	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100～
サ高住	1	1	8	5	6	10	12	3	2	1	1	4	7	18	33	33	16	2
有料老人ホーム	0	0	0	9	9	13	14	4	0	1	0	3	4	47	37	39	17	1
ケアハウス	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	2	7	4	9	2	0
高齢者向け住宅	4	2	5	12	12	6	4	0	0	1	5	9	26	24	29	5	2	0
合計	5	3	13	25	27	22	26	6	2	4	6	15	38	91	94	80	34	3
	3.4%	2.1%	8.9%	17.1%	18.5%	15.1%	17.8%	4.1%	1.4%	1.0%	1.5%	3.8%	9.7%	23.3%	24.1%	20.5%	8.7%	0.8%

【性別・要介護度別】

種別／ 要介護度	男性									女性								
	認定 なし	要支 援1	要支 援2	要介 護1	要介 護2	要介 護3	要介 護4	要介 護5	認定 なし	要支 援1	要支 援2	要介 護1	要介 護2	要介 護3	要介 護4	要介 護5		
サ高住	13	4	5	7	7	4	6	2	28	9	9	28	9	8	13	11		
有料老人ホーム	1	5	3	12	7	11	7	3	0	5	5	31	24	30	33	21		
ケアハウス	1	1	0	0	1	1	0	0	9	3	5	4	3	1	0	0		
高齢者向け住宅	34	1	3	4	2	0	0	0	54	6	4	6	3	0	0	1		
合計	48	11	11	19	14	12	8	4	91	23	21	66	37	34	43	24		
	32.9%	7.5%	7.5%	13.0%	9.6%	8.2%	5.5%	2.7%	23.3%	5.9%	5.4%	16.9%	9.5%	8.7%	11.0%	6.2%		

※高齢者向け住宅において、要介護度を把握していない住宅あり。

【保険者別】

種別／ 保険者	稲城 市	都内 市部	都内 区部	神奈 川県 内	その 他
サ高住	62	22	10	13	56
有料老人ホーム	73	77	23	15	10
ケアハウス	11	9	5	2	2
高齢者向け住宅	112	1	2	3	0
合計	258	109	40	33	68
	50.8%	21.5%	7.9%	6.5%	13.4%

【住民登録の状況別】

種別／ 住民登録	入居施設の 住所	施設外の市 内住所	市外の住所	住所地を把 握していない
サ高住	107	15	24	17
有料老人 ホーム	46	47	105	0
ケアハウ ス	29	0	0	0
高齢者向 け住宅	105	7	6	0
合計	287	69	135	17
	56.5%	13.6%	26.6%	3.3%

※高齢者向け住宅において、保険者や住民登録の住所地を把握していない住宅あり。

6 東京都が算出した 65 歳健康寿命（東京保健所長方式）

健康寿命とは、平成12（2000）年にWHOが提唱した指標で、一生涯（平均寿命）のうち、日常生活で支援や介護を要しない自立して生活できる期間のことを言います。

世界有数の長寿国である日本では、健康づくりの目的が「長く生きること」から「より高い生活の質をもってより長く生きること」へ変化しており、その包括的な指標として、平均余命に心身の自立度を加味した「健康寿命」が提唱されています。

東京都健康推進プラン21（第二次）では、総合目標の1つとして「健康寿命の延伸」を設定し、指標として65歳健康寿命（東京保健所長方式）を取り入れています。

65歳健康寿命（東京保健所長方式）とは、65歳の人が何らかの障害のために要支援・要介護認定を受ける平均年齢を言い、65歳平均自立期間（日常生活を自立して暮らせる平均生存期間）に65を足して年齢として表すものです。

また、65歳平均障害期間とは、65歳平均余命から65歳平均自立期間を除いたものです。これらは特別にデータを採取することなく、要支援・要介護認定データを活用して算出できるものであり、毎年、東京都が算出して市区町村別に公表しています。

本市の健康寿命と平均障害期間の推移は、下記の通りです（カッコ内は東京都の平均値）。

なお、本市の令和3（2021）年における男性の要支援1以上の健康寿命は、都内の市区町村の中で最も高く、要介護2以上についても2番目に高い数字となっています。また、女性についても、要支援1、要介護2以上ともに上位10番目に入る数字となっています。

図表2-48 男女別健康寿命および平均障害期間の推移（稲城市、東京都）

	男性				女性			
	要支援1以上		要介護2以上		要支援1以上		要介護2以上	
	65歳健康 寿命(歳)	65歳平均 障害期間 (年)	65歳健康 寿命(歳)	65歳平均 障害期間 (年)	65歳健康 寿命(歳)	65歳平均 障害期間 (年)	65歳健康 寿命(歳)	65歳平均 障害期間 (年)
平成29年	82.42 (81.10)	2.93 (3.31)	83.85 (82.68)	1.5 (1.73)	83.65 (82.67)	60.2 (6.69)	86.44 (85.79)	3.23 (3.58)
平成30年	82.52 (81.21)	2.81 (3.34)	84.02 (82.82)	1.31 (1.73)	83.77 (82.74)	5.95 (6.72)	86.75 (85.92)	2.98 (3.54)
令和元年	82.60 (81.28)	2.91 (3.37)	84.05 (82.93)	1.46 (1.73)	83.77 (82.81)	6.01 (6.74)	86.83 (86.02)	2.94 (3.53)
令和2年	82.64 (81.40)	3.01 (3.45)	84.21 (83.09)	1.44 (1.75)	84.00 (82.93)	6.02 (6.87)	86.93 (86.21)	3.09 (3.59)
令和3年	82.76 (81.37)	2.94 (3.34)	84.23 (83.01)	1.47 (1.69)	83.98 (82.99)	5.85 (6.66)	86.73 (86.19)	3.09 (3.47)

7 第8期計画の評価

稲城市介護保険事業計画（第8期）（以下「第8期計画」または「第8期」）で掲げた指標およびその他の参考指標について、令和元（2019）年度における実績値と現状値を比較し、達成状況の評価を行った結果は以下の通りです。

	目標指標	実績値	結果	達成状況	データ元
		R元年度	R4年度		
第1章 地域包括ケアシステムの深化・推進					
1. 地域支援事業の展開					
(1) 支え合う地域づくり(生活支援体制整備事業)					
目標	閉じこもりがちな高齢者も含め、高齢者全体を支える地域の支え合いの体制づくりを推進します。さらに、支え合いの主体の多様化を進め、地域共生社会の実現に努めます。				
参考	主観的幸福感(元気高齢者)	7.36	7.25	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	主観的健康感(元気高齢者)	2.93	2.93	維持	介護予防・日常生活圏域二重調査
	運動器機能低下リスクなし(元気高齢者)	86.6%	89.4%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	低栄養リスクなし(元気高齢者)	93.0%	93.0%	維持	介護予防・日常生活圏域二重調査
	口腔機能低下リスクなし(元気高齢者)	76.7%	74.5%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	閉じこもりリスクなし(元気高齢者)	84.6%	84.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	認知機能低下リスク(元気高齢者)	55.4%	57.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	外出頻度が高い(元気高齢者)	84.6%	84.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	友人・知人との面会頻度が高い(元気高齢者)	62.6%	57.2%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	地域活動に参加者として参加したい人※の割合(元気高齢者) ※「是非参加してみたい」、「参加してもよい」の合計	48.4%	53.7%	増加	介護予防・日常生活圏域二重調査
地域活動に運営者として参加したい人※の割合(元気高齢者) ※「是非参加してみたい」、「参加してもよい」の合計	27.2%	31.2%	増加	介護予防・日常生活圏域二重調査	
(2) 元気な高齢者の健康の維持(一般介護予防事業)					
目標	閉じこもりがちな高齢者に介護予防の重要性や必要性を紹介します。また、地域活動への参加や健康習慣を持つことを提案し、これがない場合は一般介護予防事業を活用できるように、これらがある場合は健康習慣等を維持できるように支援します。				
再掲	主観的幸福感(元気高齢者)	7.36	7.25	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
再掲	主観的健康感(元気高齢者)	2.93	2.93	維持	介護予防・日常生活圏域二重調査
再掲	運動器機能低下リスクなし(元気高齢者)	86.6%	89.4%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
再掲	低栄養リスクなし(元気高齢者)	93.0%	93.0%	維持	介護予防・日常生活圏域二重調査
再掲	口腔機能低下リスクなし(元気高齢者)	76.7%	74.5%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
再掲	閉じこもりリスクなし(元気高齢者)	84.6%	84.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
再掲	認知機能低下リスク(元気高齢者)	55.4%	57.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
再掲	外出頻度が高い(元気高齢者)	84.6%	84.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
再掲	友人・知人との面会頻度が高い(元気高齢者)	62.6%	57.2%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	65歳健康寿命(東京保健所長会方式)(※実績値:平成30年/結果:令和3年)	【男性】82.52歳(要支援1) 84.02歳(要介護2)	【男性】82.76歳(要支援1) 84.23歳(要介護2)	要支援1増加 要介護2増加	東京都福祉保健局保健政策部
		【女性】83.77歳(要支援1) 86.75歳(要介護2)	【女性】83.98歳(要支援1) 86.73歳(要介護2)	要支援1増加 要介護2減少	
(3) 支援が必要になってきた高齢者の自立支援(介護予防・生活支援サービス事業)					
目標	閉じこもりがちな高齢者や支援が必要な高齢者をより把握し、介護予防・生活サービス支援事業を必要とする高齢者が利用できることを目指します。また、健康習慣の獲得を支援し、サービスの介護予防の効果がさらに高まることを目指します。				
参考	主観的幸福感(元気高齢者)	7.36	7.25	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	(要支援者)	6.43	6.45	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	主観的健康観(元気高齢者)	2.93	2.93	維持	介護予防・日常生活圏域二重調査
	(要支援者)	2.41	2.39	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	運動器機能低下リスクなし(元気高齢者)	86.6%	89.4%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	(要支援者)	33.5%	32.8%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	低栄養リスクなし(元気高齢者)	93.0%	93.0%	維持	介護予防・日常生活圏域二重調査
	(要支援者)	84.5%	87.2%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	口腔機能低下リスクなし(元気高齢者)	76.7%	74.5%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	(要支援者)	50.1%	50.3%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	閉じこもりリスクなし(元気高齢者)	84.6%	84.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	(要支援者)	58.8%	55.8%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	認知機能低下リスクなし(元気高齢者)	55.4%	57.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	(要支援者)	38.7%	38.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	外出頻度が高い(元気高齢者)	84.6%	84.9%	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
(要支援者)	58.8%	55.8%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査	
友人・知人との面会頻度が高い(元気高齢者)	62.6%	57.2%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査	
(要支援者)	49.8%	39.7%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査	
介護予防支援数(延べ)	4,835	5,725	増加	地域包括支援センター年間活動実績	
介護予防ケアマネジメント数(延べ)	4,837	4,200	減少	地域包括支援センター年間活動実績	
(4) 地域包括支援センターの機能強化					
目標	閉じこもりがちな高齢者の把握に努めます。また、市内の医療・介護の関係機関以外との連携をさらに進めます。ケアマネジャーに自立支援や介護予防、重篤化防止の視点の必要性や可能性を示します。				
	保険者機能強化推進交付金の評価指標	-	-	-	保険者機能強化推進交付金・介護保険 保険者努力支援交付金の集計結果 (令和5年度)
(5) 総合的な認知症施策の推進(認知症総合支援事業)					
目標	認知症の人が望む生活状態が送れる地域づくりを目指します。特に認知症初期の人の声を聴き、早期に発見した場合に有効に対応できる体制を整えます。				
参考	軽度認知症の方の主観的幸福感	6.12	6.53	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	軽度認知症の方の主観的健康観	2.35	2.51	達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
	軽度認知症の方の面会頻度	46.2%	43.6%	未達成	介護予防・日常生活圏域二重調査
参考	認知症カフェの当事者参加延べ人数	62	139	増加	認知症地域支援推進員事業委託実績報告書

	目標指標	実績値	結果	達成状況	データ元
		R元年度	R4年度		
(6)在宅医療と介護との連携の推進(在宅医療・介護連携推進事業)					
目標	在宅医療が必要な状態になった場合に、ケアマネジャーやかかりつけ医が円滑に在宅医を紹介できることを目指し、支援します。				
	市民向け講演会にて「いざというとき、利用/検討しようと思う」人の割合	88.8%	100.0%	→	達成 参加者アンケート
	在宅医療を利用する世帯におけるACP「詳しく話し合っている」の割合	22.6%	21.3%	→	未達成 要介護高齢者の在宅医療に関するアンケート
	在宅医療を利用する世帯における本人と家族の希望する看取りの場所の一致率	30.8%	40.0%	→	達成 要介護高齢者の在宅医療に関するアンケート
	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査における最期を迎えたい場所が「自宅」の割合	47.0%	52.4%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
	訪問診療を提供する診療所数	5	5	→	維持 市福祉部
	ケアマネが、本人等が希望する看取り場所が不明とする割合	51.6%	56.7%	→	未達成 要介護高齢者の在宅医療に関するアンケート
(7)高齢者の居住安定に係る施策との連携(多様な住まいや施設の確保)					
目標	医療や介護が必要な状態になっても、それぞれの生活のニーズに合った住まいが住み慣れた地域にできることを目指します。				
	認知症高齢者グループホーム (看護)小規模多機能型居宅介護	(目標値)R5 1か所 (目標値)R5 1か所	R3:1か所、R5:1か所(見込) R5:1か所(見込)	→	達成 市福祉部
2 自立支援・介護予防・重度化防止に関する取組みと目標					
(1)閉じこもりがちな高齢者の把握と支援					
再掲	65歳健康寿命(東京保健所長会方式)(※実績値:平成30年/結果:令和3年)	【男性】82.52歳(要支援1) 84.02歳(要介護2) 【女性】83.77歳(要支援1) 86.75歳(要介護2)	【男性】82.76歳(要支援1) 84.23歳(要支援2) 【女性】83.98歳(要支援1) 86.73歳(要介護2)	→	要支援1増加 要介護2増加 増加 東京都福祉保健局保健政策部
再掲	運動器機能低下リスクなし(元気高齢者)	86.6%	89.4%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	低栄養リスクなし(元気高齢者)	93.0%	93.0%	→	維持 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	口腔機能低下リスクなし(元気高齢者)	76.7%	74.5%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	閉じこもりリスクなし(元気高齢者)	84.6%	84.9%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	認知機能低下リスクなし(元気高齢者)	55.4%	57.9%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	外出頻度が高い(元気高齢者)	84.6%	84.9%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	友人・知人との面会頻度が高い(元気高齢者)	62.6%	57.2%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康習慣の有無(元気高齢者)	58.8%	62.5%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康意識の有無(元気高齢者)	85.2%	88.4%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
参考	高齢者アンケートの回収率	78.1%	83.7%	→	増加 75歳以上の単身世帯向けアンケート
参考	高齢者アンケートの対象者数	5,534	688	→	減少 75歳以上の単身世帯向けアンケート
(2)要支援高齢者の状態の改善					
再掲	サービスの利用延べ人数	41	390	→	達成 国保連審査請求明細
再掲	65歳健康寿命(東京保健所長会方式)(※実績値:平成30年/結果:令和3年)	【男性】82.52歳(要支援1) 84.02歳(要支援2) 【女性】83.77歳(要支援1) 86.75歳(要支援2)	【男性】82.76歳(要支援1) 84.23歳(要支援2) 【女性】83.98歳(要支援1) 86.73歳(要支援2)	→	増加 要支援1増加 要支援2減少 東京都福祉保健局保健政策部
再掲	運動器機能低下リスクなし(元気高齢者)(要支援者)	86.6%	89.4%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	低栄養リスクなし(元気高齢者)(要支援者)	33.5%	32.8%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	口腔機能低下リスクなし(元気高齢者)(要支援者)	93.0%	93.0%	→	維持 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	閉じこもりリスクなし(元気高齢者)(要支援者)	84.5%	87.2%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	認知機能低下リスクなし(元気高齢者)(要支援者)	76.7%	74.5%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	外出頻度が高い(元気高齢者)(要支援者)	50.1%	50.3%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	友人・知人との面会頻度が高い(元気高齢者)(要支援者)	84.6%	84.9%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康習慣の有無(元気高齢者)(要支援者)	58.8%	55.8%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康意識の有無(元気高齢者)(要支援者)	55.4%	57.9%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康意識の有無(元気高齢者)(要支援者)	38.7%	38.9%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	外出頻度が高い(元気高齢者)(要支援者)	84.6%	84.9%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	友人・知人との面会頻度が高い(元気高齢者)(要支援者)	58.8%	55.8%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康習慣の有無(元気高齢者)(要支援者)	62.6%	57.2%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康意識の有無(元気高齢者)(要支援者)	49.8%	39.7%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康習慣の有無(元気高齢者)(要支援者)	58.8%	62.5%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康意識の有無(元気高齢者)(要支援者)	42.7%	45.3%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康意識の有無(元気高齢者)(要支援者)	85.2%	88.4%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	健康意識の有無(元気高齢者)(要支援者)	83.8%	81.9%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
参考	訪問Cの利用人数	3	6	→	増加 地域包括支援センター活動実績
参考	通所Cの利用人数	18	77	→	増加 地域包括支援センター活動実績
参考	通所C利用後に通所A等に移行しなかった割合	55.6%	42.9%	→	減少 地域包括支援センター活動実績
(3)認知症になっても安心できるまちづくり					
再掲	軽度認知症の方の主観的幸福感	6.12	6.53	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	運動器機能低下リスクなし(軽度認知症の方)	38.2%	53.7%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	低栄養リスクなし(軽度認知症の方)	77.4%	87.1%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	口腔機能低下リスクなし(軽度認知症の方)	42.6%	44.0%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	閉じこもりリスクなし(軽度認知症の方)	63.2%	64.1%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	軽度認知症の方の外出頻度	63.2%	64.1%	→	達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
再掲	軽度認知症の方の面会頻度	46.2%	43.6%	→	未達成 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
参考	初期集中支援チームの対象者数	6	9	→	増加 認知症初期集中支援推進事業委託実績報告書
参考	「これって認知症？」アクセスログ数	2,802	1,619	→	減少 福城市HP
参考	「わたしも認知症？」アクセスログ数	2,435	1,498	→	減少 福城市HP
第2章 権利擁護・見守りネットワークの推進					
1. 介護に取り組む家族等への支援の充実					
目標	介護する家族が介護離職に至らないように、適切なサービスを使い、負担を軽減できるように支援します。また、介護する家族が、孤立しないよう支援します。				
2. 高齢者の権利を守るためのネットワークの構築・高齢者虐待の防止					
目標	権利擁護を必要とする高齢者の把握に努めるとともに、必要な権利擁護が円滑に提供できる体制づくりを目指します。特に認知症の人が安心して外出できる地域の見守り体制づくりに努めます。また、高齢者虐待の早期発見・早期対応に努めます。				
再掲	保険者機能強化推進交付金の評価指標(←認知症の普及啓発、チームオレンジの形成)	-	-	-	- 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金の集計結果(令和5年度)

第2章 日常生活圏域および地域の状況について

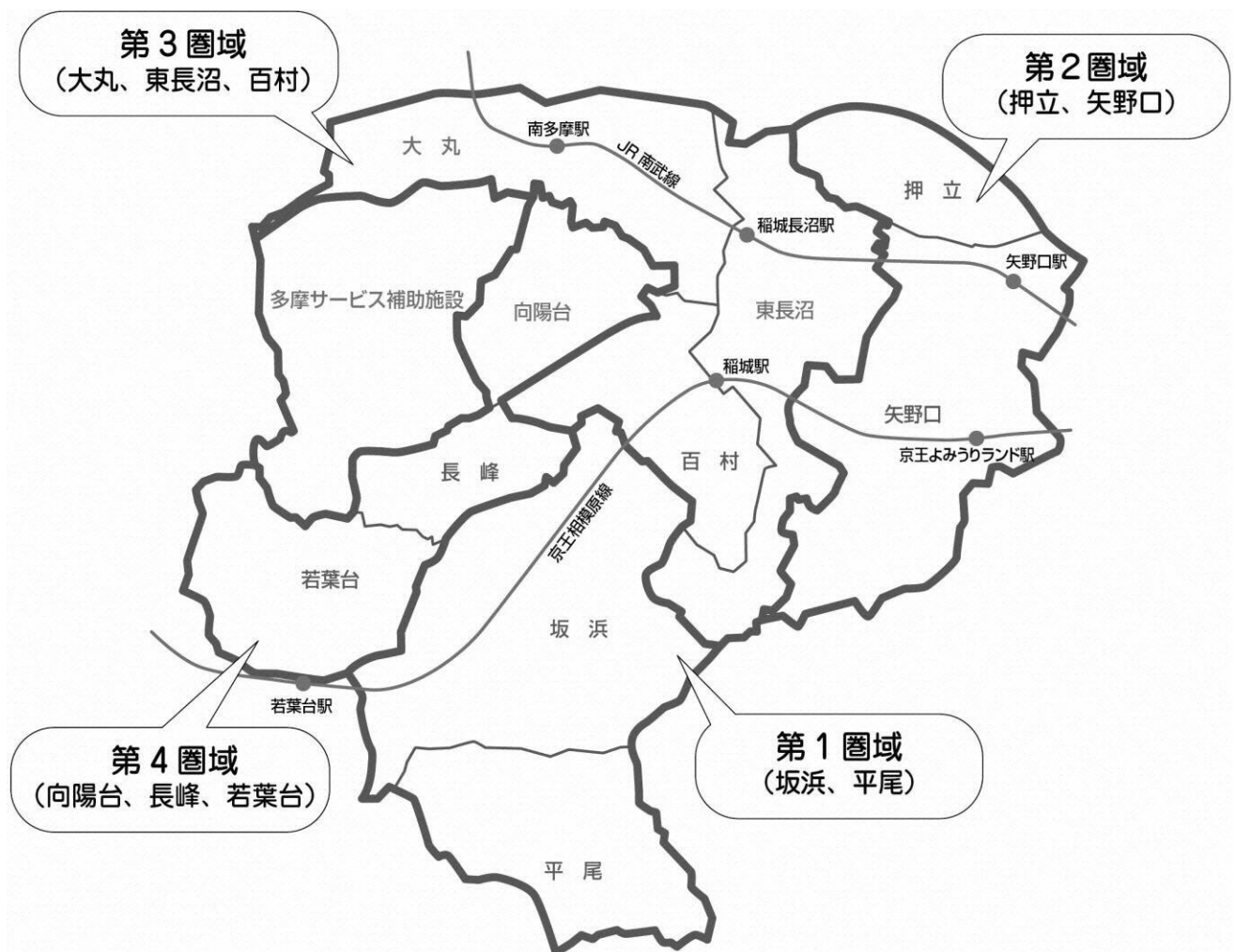
1 市の日常生活圏域の設定

日常生活圏域は、地理的条件や人口、交通事情その他の社会的条件等によって構成されるエリアであり、要介護高齢者等が住み慣れた地域でサービスを受けることができる地域包括ケアシステムの基礎となるエリアです。

本市では、「介護ニーズの量」、「事業の効率性・まとまり」および「空間的な距離」をもとに4圏域を設定しました。なお、各圏域に地域福祉の中核を担う地域包括支援センターを配置しています。

また、地域で高齢者の介護予防や生活支援等を支える仕組みづくり（生活支援体制整備事業）等を進める上では、圏域よりも小規模な地区の単位での取組みが効率的であることから、1圏域を2または3の地区に分け、市内10地区での取組みを行っています。

図表2-49 市の日常生活圏域



2 日常生活圏域別の概況、地域資源および認定者の状況

第1圏域 坂浜・平尾

概況

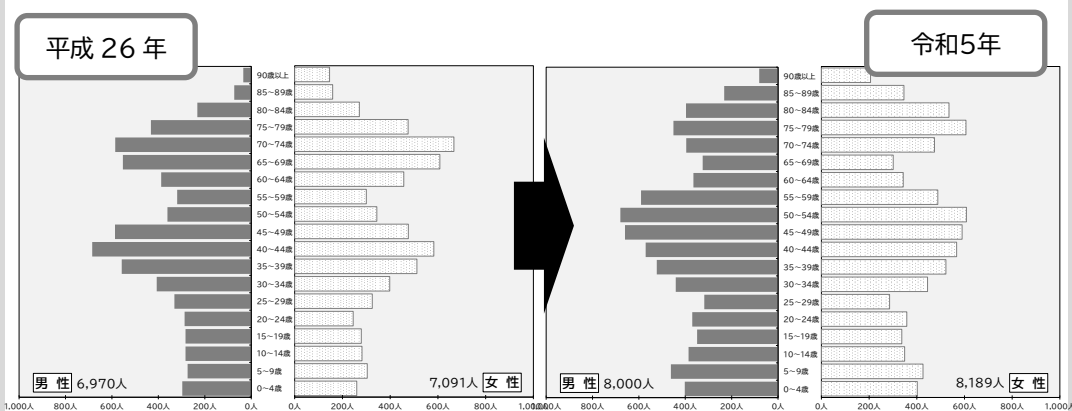
市南部に位置し、住宅供給公社の平尾団地が立地している圏域

公共交通

・iバス ・小田急バス

人口構成

・平成26年から令和5年までの間に人口は2,128人増加、高齢化率は3.2ポイント減少している。年齢層のピークは平成26年では40～44歳、70～74歳でしたが、令和5年では45～49歳、50～54歳となっています。



	14,061人	→ 人口 →	16,189人
H26	4,236人	→ 高齢者人口 →	4,350人
	30.1%	→ 高齢化率 →	26.9%

※住民基本台帳人口(10月1日現在)

地域資源

相談拠点	地域包括支援センターひらお	
介護保険施設	いなぎ正吉苑(介護老人福祉施設) ひらお苑(介護老人福祉施設)	
地域密着型サービス (通所を除く)	高齢者サービスステーションいなぎ正吉苑(認知症対応型通所介護) 看多機かえりえ平尾(看護小規模多機能型居宅介護) やさしい手平尾巡回訪問介護事業所(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)	
介護予防・生活支援サービス (総合事業)	訪問型サービス(A)	ホームヘルプステーションひらお苑 やさしい手 平尾巡回訪問介護事業所
	訪問型サービス(C)	駒沢女子大学健康栄養相談室
	通所サービス(A)	高齢サービスステーションいなぎ正吉苑 デイサービスセンターひらお苑 あすかフィジカルセンター平尾 かがやき倶楽部のり リハビリパーク 千代ヶ丘
	通所サービス(C)	稲城柔道接骨師会デイサービス 平尾接骨院
居住系サービス・住まい	コーシャハイム平尾(サービス付き高齢者向け住宅) 生活支援ハウス どんぐり(高齢者生活支援ハウス) 介護付き有料老人ホームベストライフたま(特定施設) グループホームやまもも(認知症高齢者共同生活介護)	
医療(病院)	—	

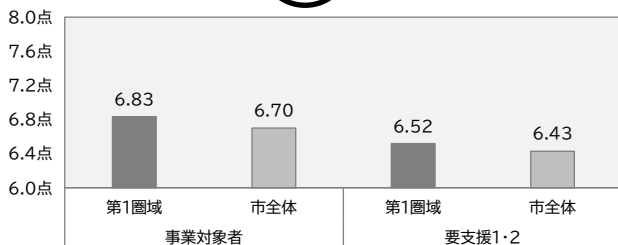


調査・データでみる第1圏域(坂浜・平尾)の状況

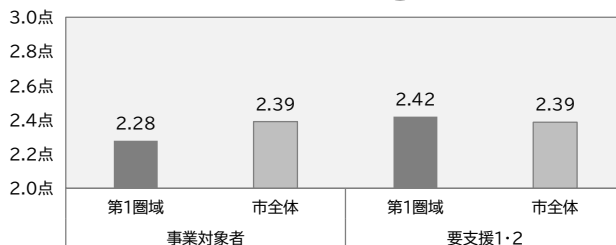
※1・2は日常生活圏域ニーズ調査結果より 第1圏域(n=158)市全体(n=720)

1 事業対象者および要支援・要介護認定者のアウトカム指標

～主観的幸福感～

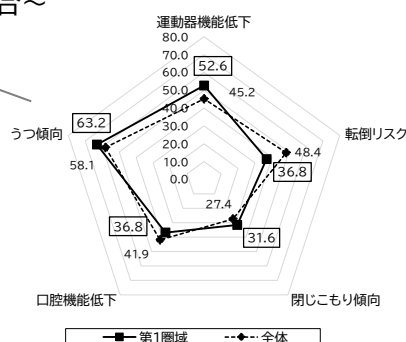


～主観的健康感～

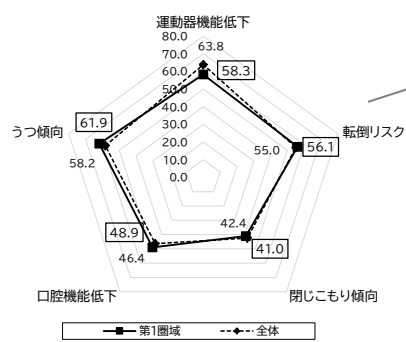


～5大リスク者の割合～

事業対象者

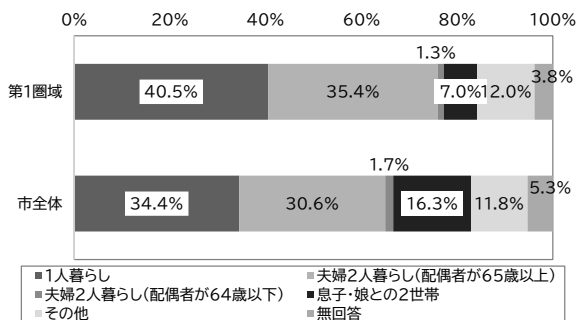


要支援1・2

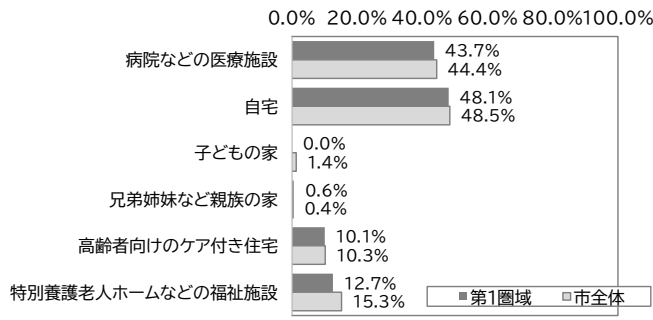


2 事業対象者および要支援・要介護認定者の暮らし・エンドオブライフケアへの意識

～世帯構成(単数回答)～



～最期を迎えたい場所(複数回答)～



3 事業対象者および要支援・要介護認定者の状況

～事業対象者および要支援・要介護認定者数(施設入居者を除く)～(令和5年10月1日時点)

区分	単位	事業対象者	要介護(支援)認定者数	要支援		要介護				
				要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
第1圏域	n	86	683	101	125	133	104	84	83	53
	%	-	100.0%	14.8%	18.3%	19.5%	15.2%	12.3%	12.2%	7.8%
市全体	n	259	3,192	501	592	590	540	359	362	248
	%	-	100.0%	15.7%	18.5%	18.5%	16.9%	11.2%	11.3%	7.8%

～要支援・要介護認定者の認知症自立度(施設入居者を除く)～(令和5年10月1日時点)

区分	単位	合計	自立	I	II		III			IV	M	不明	
					IIa	IIb	IIIa	IIIb					
第1圏域	n	682	149	170	172	72	100	132	99	33	50	9	0
	%	100.0%	21.8%	24.9%	25.2%	10.6%	14.7%	19.4%	14.5%	4.8%	7.3%	1.3%	0.0%
市全体	n	3,149	726	714	876	324	552	553	415	138	233	47	0
	%	100.0%	23.1%	22.7%	27.8%	10.3%	17.5%	17.6%	13.2%	4.4%	7.4%	1.5%	0.0%

※市全体と比較して構成比が高いものに色付け

第2圏域 押立・矢野口

概況

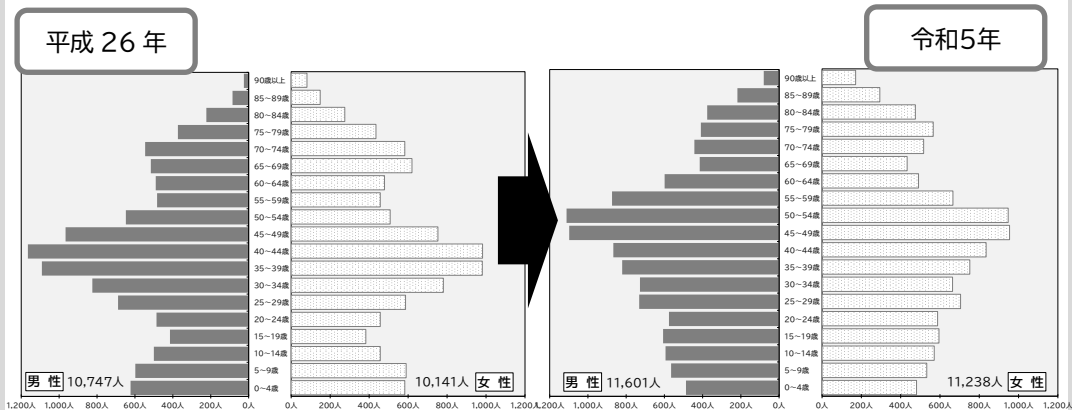
市東部に位置し、多摩川と多摩丘陵に挟まれた圏域

公共交通

・JR 南武線矢野口駅 ・京王相模原線よみうりランド駅
 ・バス ・小田急バス ・京王バス

人口構成

・平成26年から令和5年までの間に人口は 1,951 人増加し、高齢化率は0.6ポイント高くなっています。年齢層のピークは平成26年では35～39歳、40～44歳でしたが、令和5年では45～49歳、50～54歳となっています。



H26	20,888 人	→ 人口	→ 22,839 人	R5
	3,911 人	→ 高齢者人口	→ 4,397 人	
	18.7%	→ 高齢化率	→ 19.3%	

※住民基本台帳人口(10月1日現在)

地域資源

相談拠点	地域包括支援センターやのくち	
介護保険施設	—	
地域密着型サービス (通所を除く)	複合型サービスセンターやのくち正吉苑(看護小規模多機能型居宅介護) ホームヘルプステーションやのくち正吉苑 (定期巡回・随時対応型訪問看護、夜間対応型訪問介護)	
介護予防・生活支援サービス (総合事業)	訪問型サービス(A)	ホームヘルプステーションやのくち正吉苑 訪問介護事業所とうきょうホームケア
	訪問型サービス(C)	スギ薬局
	通所サービス(A)	やのくち正吉苑 デイサービスセンターハーモニー松葉 デイサービスセンターバルウエア矢野口 稲城ケアセンターそよ風
	通所サービス(C)	稲城柔道接骨師会デイサービス 佐々木接骨院
居住系サービス・住まい	ジョイハウスたまがわ(高齢者住宅) ケアハウス ハーモニー松葉(軽費老人ホーム) そんぼの家 稲城矢野口(特定施設) グループホーム やのくち正吉苑(認知症対応型共同生活介護)	
医療(病院)	よみうりランド慶友病院	

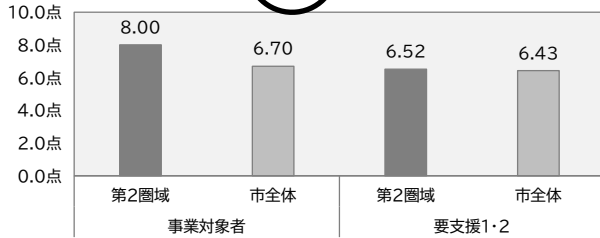


調査・データでみる第2圏域(押立・矢野口)の状況

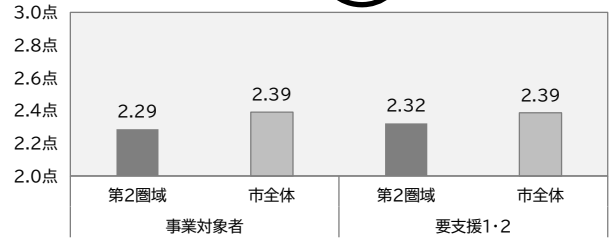
※1・2は日常生活圏域ニーズ調査結果より 第2圏域(n=147)市全体(n=720)

1 事業対象者および要支援・要介護認定者のアウトカム指標

～主観的幸福感～

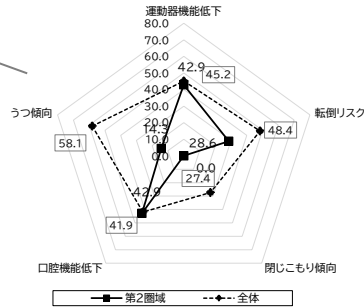


～主観的健康感～

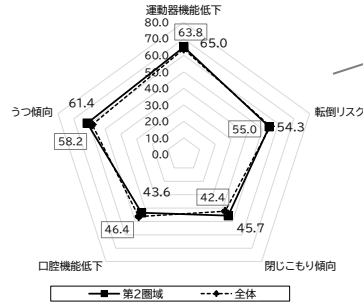


～5大リスク者の割合～

事業対象者

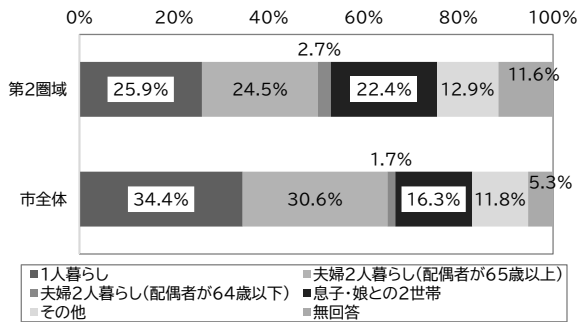


要支援1・2

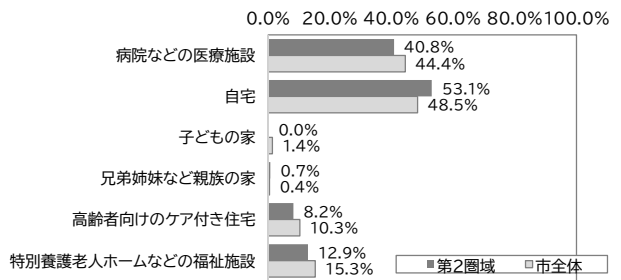


2 事業対象者および要支援・要介護認定者の暮らし・エンドオブライフケアへの意識

～世帯構成(単数回答)～



～最期を迎えたい場所(複数回答)～



3 事業対象者および要支援・要介護認定者の状況

～事業対象者および要支援・要介護認定者数(施設入居者を除く)～(令和5年10月1日時点)

区分	単位	事業対象者	要介護(支援)認定者数	要支援		要介護				
				要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
第2圏域	n	38	778	108	155	150	141	83	89	52
	%	-	100.0%	13.9%	19.9%	19.3%	18.1%	10.7%	11.4%	6.7%
市全体	n	259	3,192	501	592	590	540	359	362	248
	%	-	100.0%	15.7%	18.5%	18.5%	16.9%	11.2%	11.3%	7.8%

～要支援・要介護認定者の認知症自立度(施設入居者を除く)～(令和5年10月1日時点)

区分	単位	合計	自立	I	II		III			IV	M	
					IIa	IIb	IIIa	IIIb				
第2圏域	n	770	175	177	237	79	158	130	100	30	44	7
	%	100.0%	22.7%	23.0%	30.8%	10.3%	20.5%	16.9%	13.0%	3.9%	5.7%	0.9%
市全体	n	3,149	726	714	876	324	552	553	415	138	233	47
	%	100.0%	23.1%	22.7%	27.8%	10.3%	17.5%	17.6%	13.2%	4.4%	7.4%	1.5%

※市全体と比較して構成比が高いものに色付け

第3圏域 大丸・東長沼・百村

概況

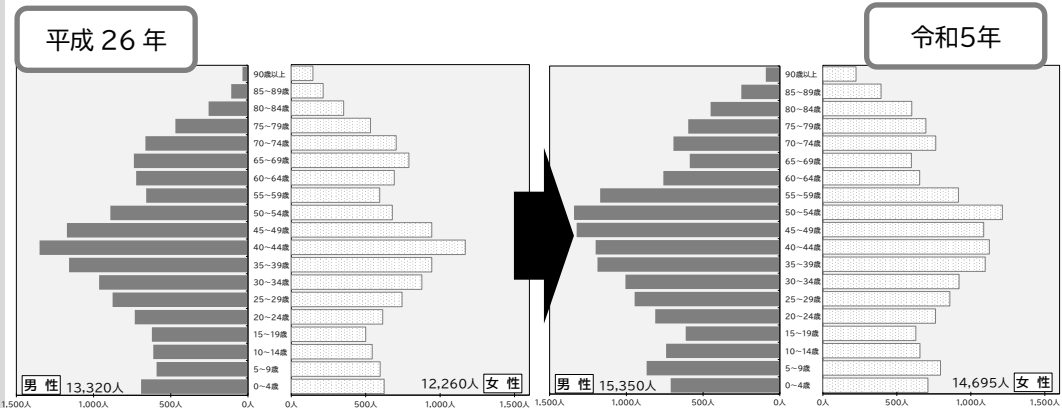
市中心部を形成し、市役所、都営大丸団地が立地する地域

公共交通

・JR 南武線稲城長沼駅、南多摩駅 ・京王相模原線稲城駅
 ・iバス ・京王バス ・小田急バス

人口構成

・平成26年から令和5年までの間には、人口は 4,465 人増加した一方、高齢化率に大きな変化はみられませんでした。年齢層のピークは、平成26年では40～44歳でしたが、令和5年では50～54歳となっています。



H26	25,580 人	→ 人口	→ 30,045 人	R5
	5,009 人	→ 高齢者人口	→ 5,945 人	
	19.6%	→ 高齢化率	→ 19.8%	

※住民基本台帳人口(10月1日現在)

地域資源

相談拠点	地域包括支援センターエレガントもむら	
介護保険施設	いなぎ苑(介護老人福祉施設)	
地域密着型サービス(通所を除く)	小規模多機能型居宅介護 みんなの家・稲城長沼	
介護予防・生活支援サービス(総合事業)	訪問型サービス(A)	いなぎ苑 有りの実訪問介護事業所 手のひら訪問介護サービス 稲城市社会福祉協議会
	訪問型サービス(C)	—
	通所サービス(A)	いなぎ苑 いなぎ苑(地域密着) 稲城柔道接骨師会デイサービス株式会社 ヒューマンライフケア稲城の湯 サロンデイ稲城 デイサービス 柔 デイサービス 第二柔 ツクイ稲城東長沼 オーエンス健康プラザ
	通所サービス(C)	稲城柔道接骨師会デイサービス 清水接骨院 稲城柔道接骨師会デイサービス おみ接骨院 デイサービス 第二柔
居住系サービス・住まい	介護付き有料老人ホーム ニチイホーム稲城(特定施設) 介護付き有料老人ホーム パルウェア多摩川(特定施設) みんなの家・稲城長沼(認知症対応型共同生活介護) そんぼの家S稲城(サービス付き高齢者向け住宅) そんぼの家S稲城長沼(サービス付き高齢者向け住宅)	
医療(病院)	稲城市立病院	

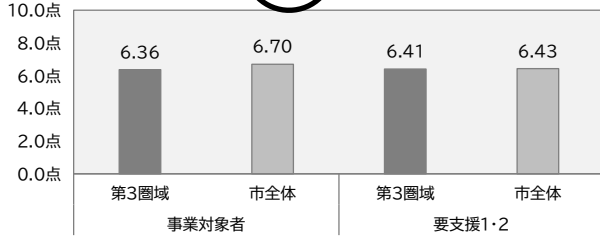


調査・データでみる第3圏域(大丸・東長沼・百村)の状況

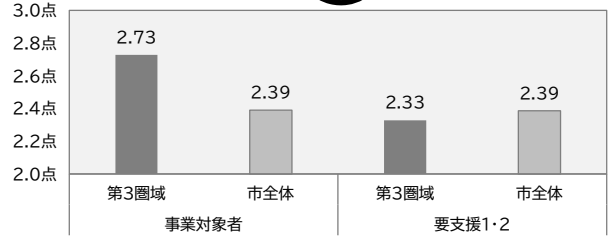
※1・2は日常生活圏域ニーズ調査結果より 第3圏域(n=227)市全体(n=720)

1 事業対象者および要支援・要介護認定者のアウトカム指標

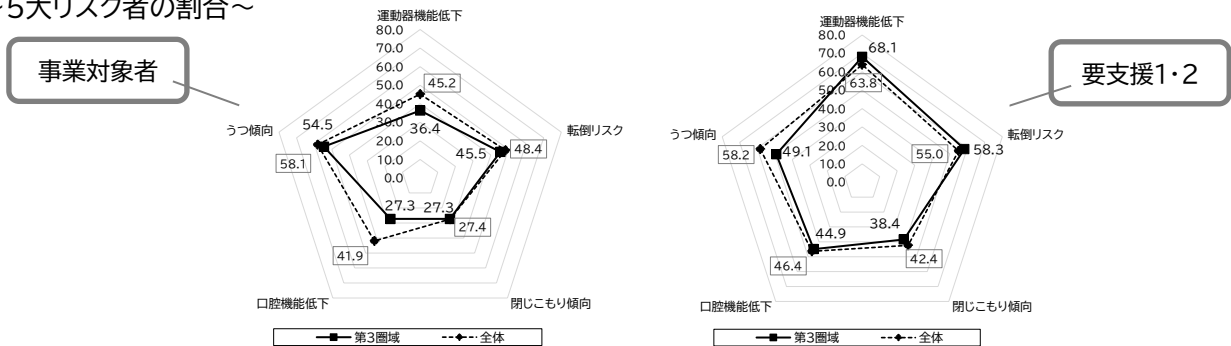
～主観的幸福感～



～主観的健康感～

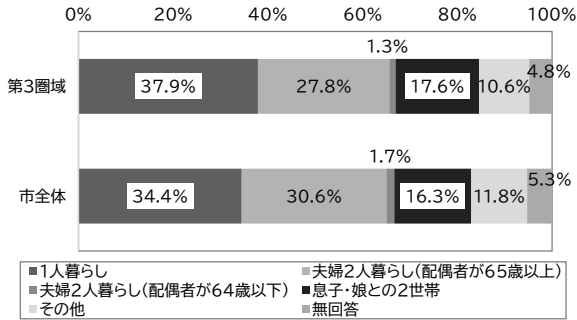


～5大リスク者の割合～

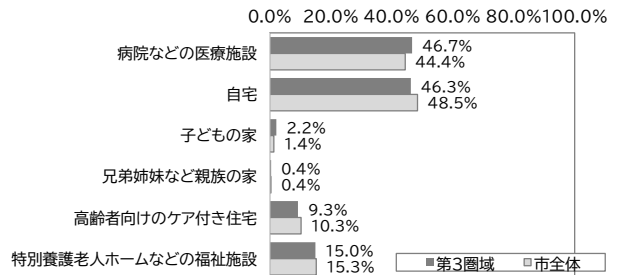


2 事業対象者および要支援・要介護認定者の暮らし・エンドオブライフケアへの意識

～世帯構成(単数回答)～



～最期を迎えたい場所(複数回答)～



3 事業対象者および要支援・要介護認定者の状況

～事業対象者および要支援・要介護認定者数(施設入居者を除く)～(令和5年10月1日時点)

区分	単位	事業対象者	要介護(支援)認定者数	要支援		要介護				
				要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
第3圏域	n	61	975	166	180	174	162	109	104	80
	%	-	100.0%	17.0%	18.5%	17.8%	16.6%	11.2%	10.7%	8.2%
市全体	n	259	3,192	501	592	590	540	359	362	248
	%	-	100.0%	15.7%	18.5%	18.5%	16.9%	11.2%	11.3%	7.8%

～要支援・要介護認定者の認知症自立度(施設入居者を除く)～(令和5年10月1日時点)

区分	単位	合計	自立	I	II		III	IV	M			
					IIa	IIb						
第3圏域	n	965	235	212	265	99	166	169	131	38	67	17
	%	100.0%	24.4%	22.0%	27.5%	10.3%	17.2%	17.5%	13.6%	3.9%	6.9%	1.8%
市全体	n	3,149	726	714	876	324	552	553	415	138	233	47
	%	100.0%	23.1%	22.7%	27.8%	10.3%	17.5%	17.6%	13.2%	4.4%	7.4%	1.5%

※市全体と比較して構成比が高いものに色付け

第4圏域 向陽台・長峰・若葉台

概況

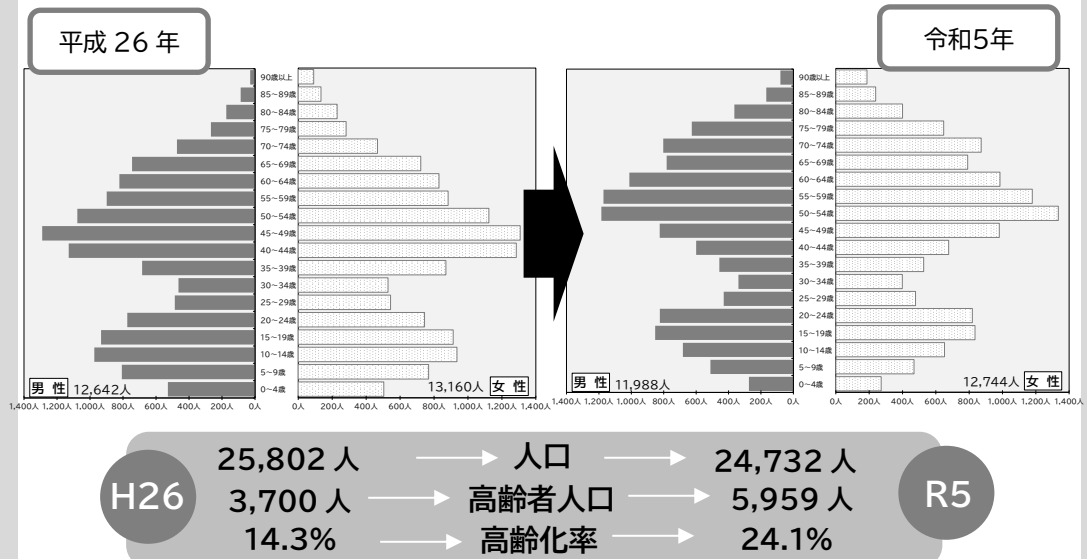
市西部に位置し、多摩ニュータウンの東端にかかる圏域

公共交通

- ・京王相模原線若葉台駅
- ・iバス・京王バス・小田急バス

人口構成

・平成26年から令和5年までの間には、人口は1,070人減少した一方、高齢化率は9.8ポイント増加しています。年齢層のピークは、平成26年では45～49歳でしたが、令和5年では50～54歳となっています。



※住民基本台帳人口(10月1日現在)

地域資源

相談拠点	地域包括支援センターこうようだい	
介護保険施設	デンマークイン若葉台(介護老人保健施設)	
地域密着型サービス(通所を除く)	小規模多機能型居宅介護たんぼぼの郷	
介護予防・生活支援サービス(総合事業)	訪問型サービス(A)	NPOふれあい広場ポーポーの木 アースサポート稲城 ピースいなぎヘルパーステーション
	訪問型サービス(C)	—
	通所サービス(A)	アクアメイト稲城 NPOふれあい広場ポーポーの木
	通所サービス(C)	WA!ボグレルジム アクアメイト稲城
居住系サービス・住まい	都営住宅(長峰地区シルバーピア) グループホームたんぼぼの郷(認知症対応型共同生活介護)	
医療(病院)	稲城台病院(認知症疾患医療センター)	

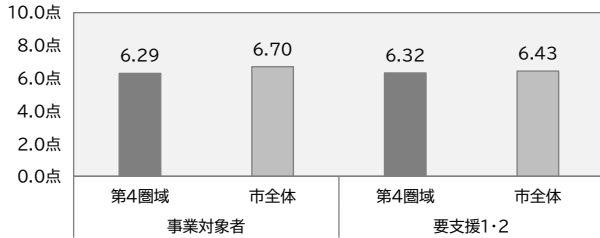


調査・データでみる第4圏域(向陽台・長峰・若葉台)の状況

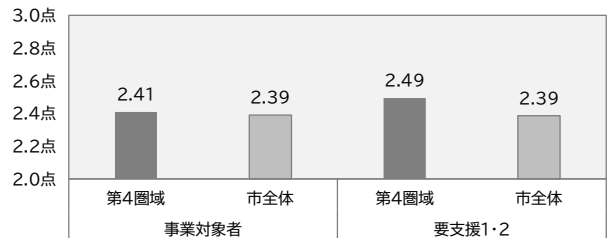
※1・2は日常生活圏域二区調査結果より 第4圏域(n=177)市全体(n=720)

1 事業対象者および要支援・要介護認定者のアウトカム指標

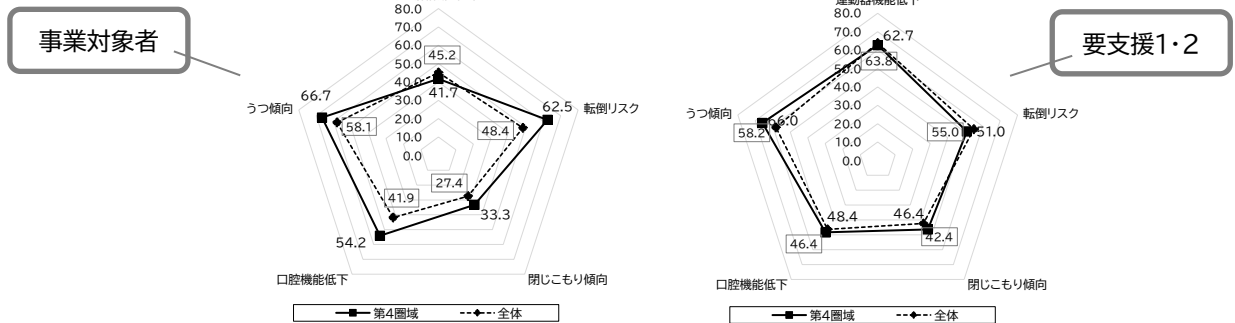
～主観的幸福感～



～主観的健康感～

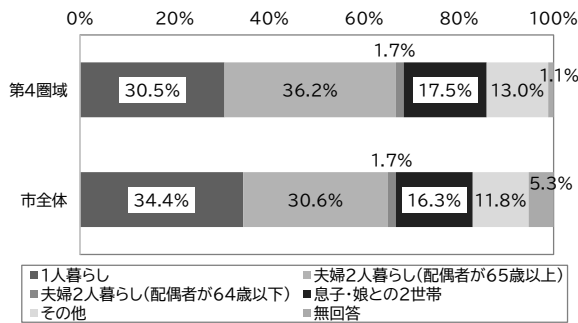


～5大リスク者の割合～

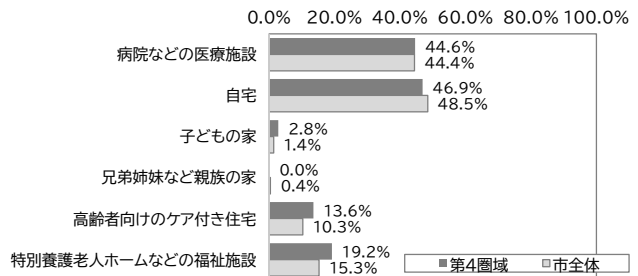


2 事業対象者および要支援・要介護認定者の暮らし・エンドオブライフケアへの意識

～世帯構成(単数回答)～



～最期を迎えたい場所(複数回答)～



3 事業対象者および要支援・要介護認定者の状況

～事業対象者および要支援・要介護認定者数(施設入居者を除く)～(令和5年10月1日時点)

区分	単位	事業対象者	要介護(支援)認定者数	要支援		要介護				
				要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
第4圏域	n	74	756	126	132	133	133	83	86	63
	%	-	100.0%	16.7%	17.5%	17.6%	17.6%	11.0%	11.4%	8.3%
市全体	n	259	3,192	501	592	590	540	359	362	248
	%	-	100.0%	15.7%	18.5%	18.5%	16.9%	11.2%	11.3%	7.8%

～要支援・要介護認定者の認知症自立度(施設入居者を除く)～(令和5年10月1日時点)

区分	単位	合計	自立	I		II		III		IV	M	
				Ia	Ib	IIa	IIb	IIIa	IIIb			
第4圏域	n	732	167	155	202	74	128	122	85	37	72	14
	%	100.0%	22.8%	21.2%	27.6%	10.1%	17.5%	16.7%	11.6%	5.1%	9.8%	1.9%
市全体	n	3,149	726	714	876	324	552	553	415	138	233	47
	%	100.0%	23.1%	22.7%	27.8%	10.3%	17.5%	17.6%	13.2%	4.4%	7.4%	1.5%

※市全体と比較して構成比が高いものに色付け

3 日常生活圏域を構成する10地区の高齢者の状況

SAKAHAMA

坂浜

地区の
特徴

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

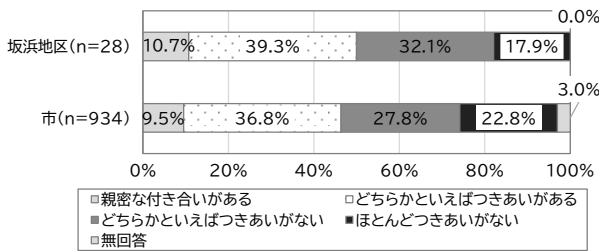
人口	3,877人		
高齢者人口	739人	高齢化率	19.1%
後期高齢者人口	455人	後期高齢化率	11.7%
85歳以上高齢者人口	119人	85歳以上高齢化率	3.1%

- 市民意識調査によれば近所付き合いは活発。
- 各リスクのない人の割合は、市全体に比べて少ないが、5大リスクすべてなしの方は多い。
- 地域活動への参加意向は参加者、企画者いずれも低い。

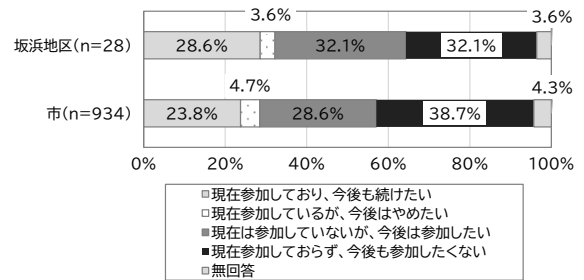
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



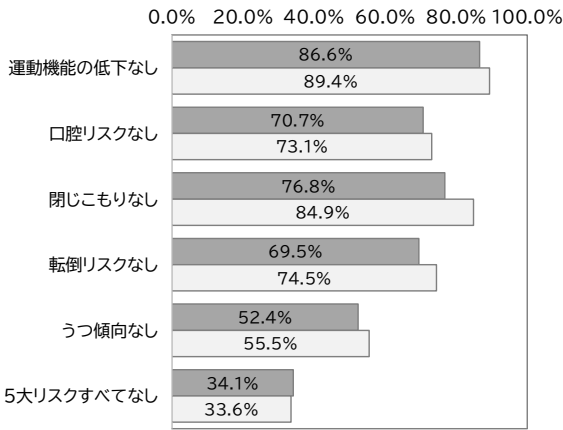
～地域の団体や組織への参加意向～



2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

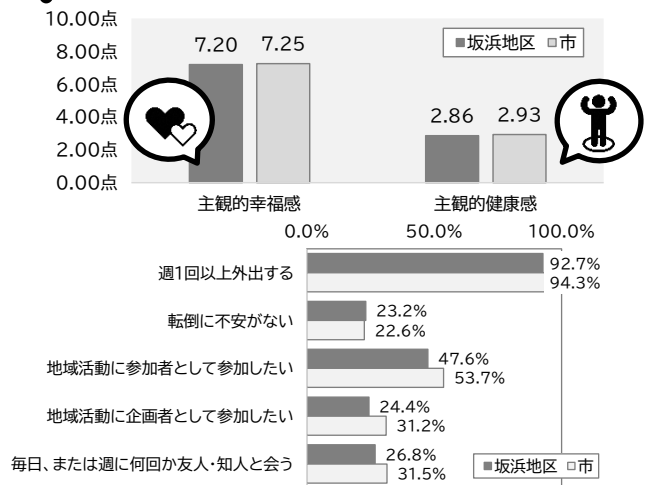
令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



坂浜地区(n=82),市全体(n=1,976)

元気高齢者の心身の状態

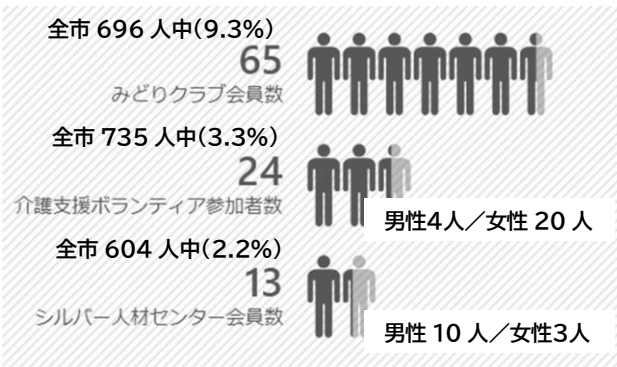


3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

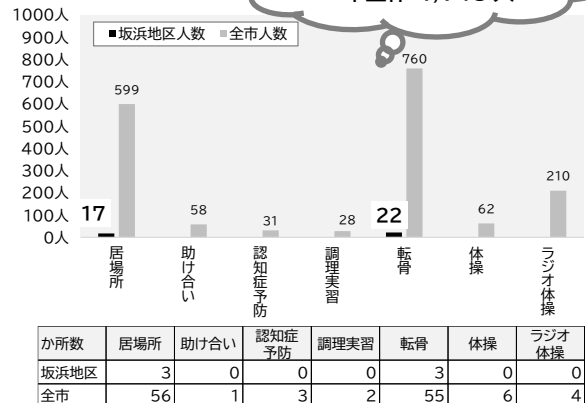
住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在



通いの場

合計 坂浜 :39人(2.2%)
市全体:1,748人



か所数	居場所	助け合い	認知症予防	調理実習	転骨	体操	ラジオ体操
坂浜地区	3	0	0	0	3	0	0
全市	56	1	3	2	55	6	4

(令和5年8月31日現在)

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

人口	12,312人		
高齢者人口	3,611人	高齢化率	29.3%
後期高齢者人口	2,399人	後期高齢化率	19.5%
85歳以上高齢者人口	746人	85歳以上高齢化率	6.1%

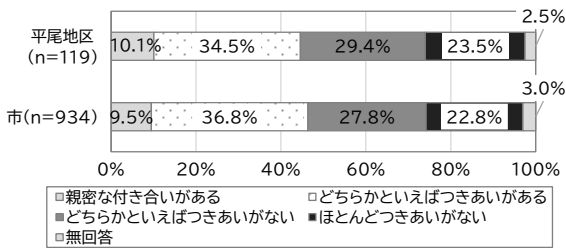
地区の
特徴

- 現在地域団体に参加していて、今後も参加したい割合がやや高い。
- 高齢化率が進んでいる一方、閉じこもりや転倒リスクのない人の割合が高い。
- 通いの場は18か所ある。

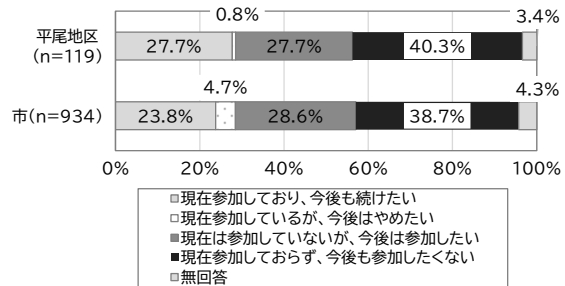
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



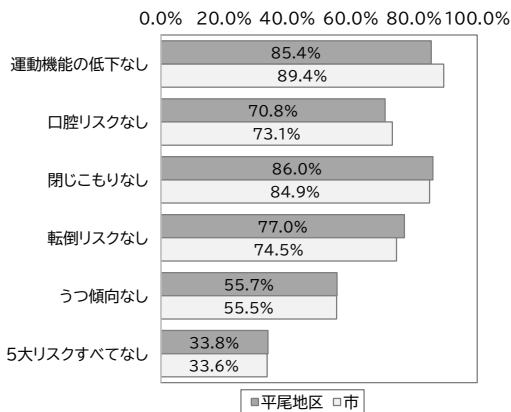
～地域の団体や組織への参加意向～



2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

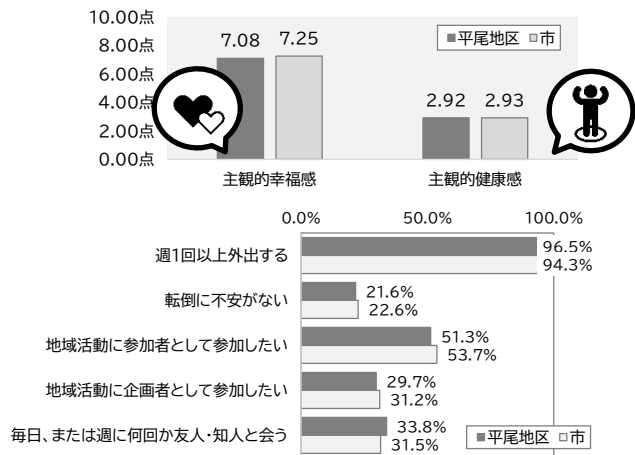
令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



平尾地区(n=343),市全体(n=1,976)

元気高齢者の心身の状態

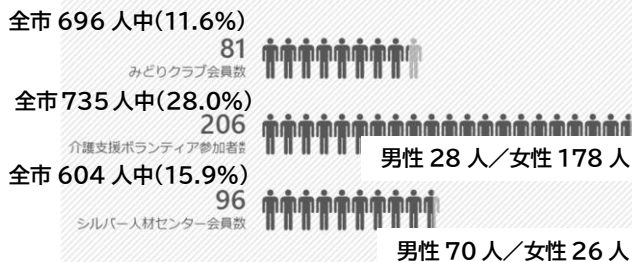


3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

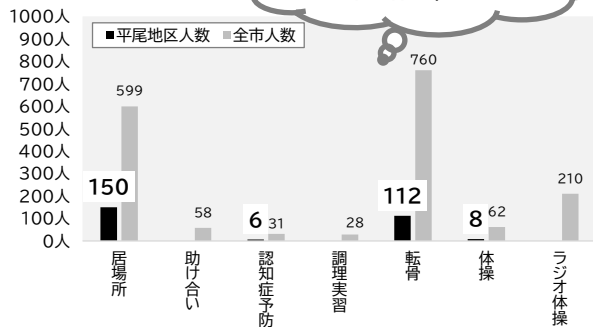
住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在



通いの場

合計 平尾 : 276人(15.8%)
市全体: 1,748人



か所数	居場所	助け合い	認知症予防	調理実習	転骨	体操	ラジオ体操
平尾地区	10	0	1	0	6	1	0
全市	56	1	3	2	55	6	4

(令和5年8月31日現在)

OSHITATE 押立

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

人口	4,945人		
高齢者人口	1,096人	高齢化率	22.2%
後期高齢者人口	673人	後期高齢化率	13.6%
85歳以上高齢者人口	213人	85歳以上高齢化率	4.3%

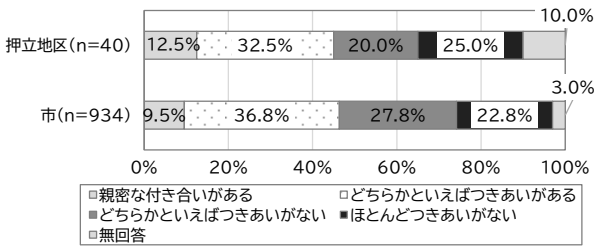
地区の 特徴

- 親密な近所付き合いがある人が多く、地域団体に参加していて今後も参加したい人の割合が高い。
- うつ傾向以外のリスクのない人の割合が市全体に比べて低い。友人・知人との面会頻度が高い。
- 通いの場は11か所ある。

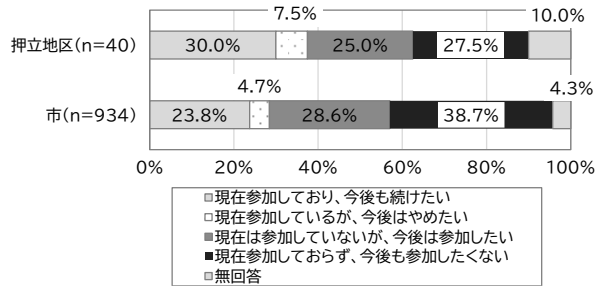
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



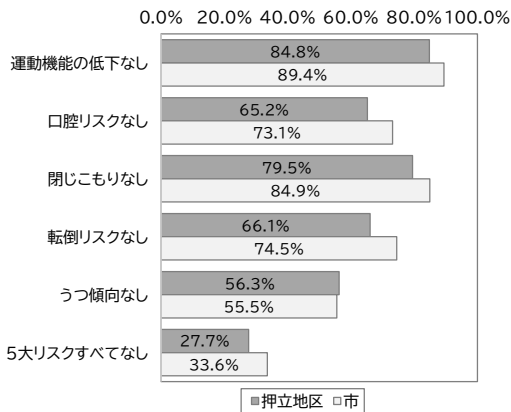
～地域の団体や組織への参加意向～



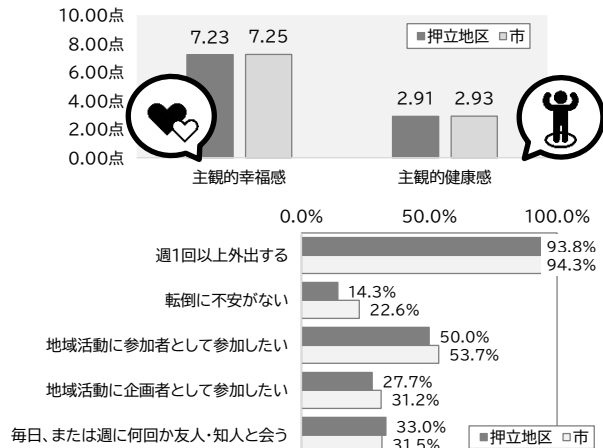
2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



元気高齢者の心身の状態



押立地区(n=112),市全体(n=1,976)

3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在

全市 696人中(7.5%)

52 人
みどりクラブ会員数

全市 735人中(6.7%)

49 人
介護支援ボランティア参加者数

全市 604人中(5.3%)

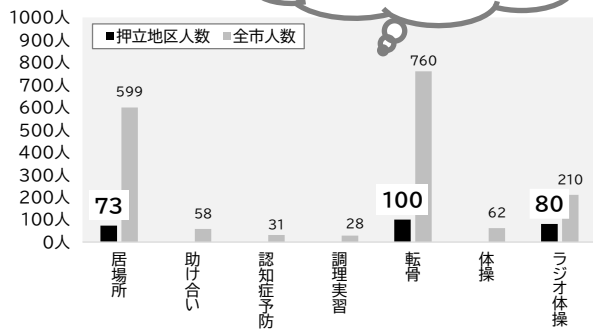
32 人
シルバー人材センター会員数

男性7人/女性42人

男性23人/女性9人

通いの場

合計 押立 : 253人(14.5%)
市全体: 1,748人



か所数	居場所	助け合い	認知症予防	調理実習	転骨	体操	ラジオ体操
押立地区	4	0	0	0	6	0	1
全市	56	1	3	2	55	6	4

(令和5年8月31日現在)

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

人口	17,894人		
高齢者人口	3,301人	高齢化率	18.4%
後期高齢者人口	1,916人	後期高齢化率	10.7%
85歳以上高齢者人口	550人	85歳以上高齢化率	3.1%

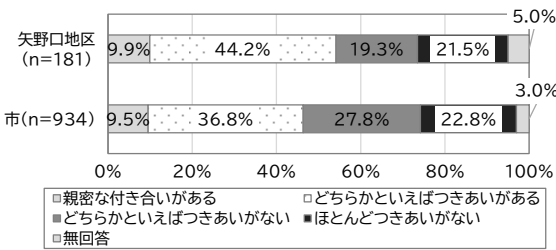
地区の
特徴

- 地域団体等に参加している割合が市全体と比べて低い。
- 高齢化は進んでいないものの、5大リスクすべてなしの人の割合は市全体と比べて低い。
- 通いの場は23か所あり、10地区の中で最も多い。

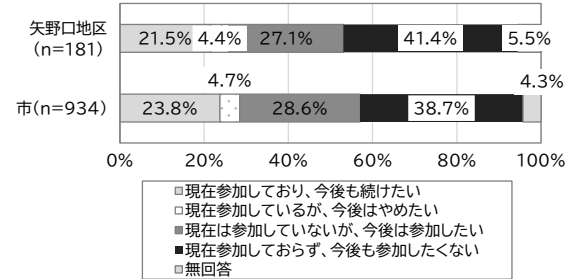
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



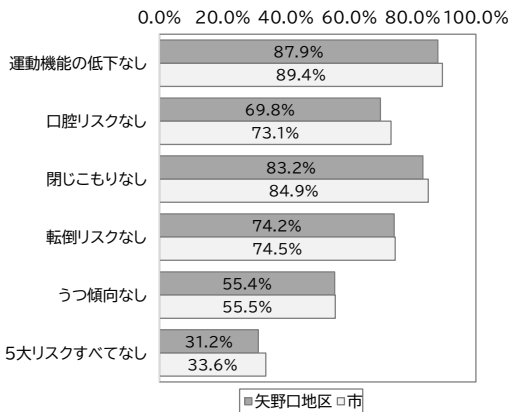
～地域の団体や組織への参加意向～



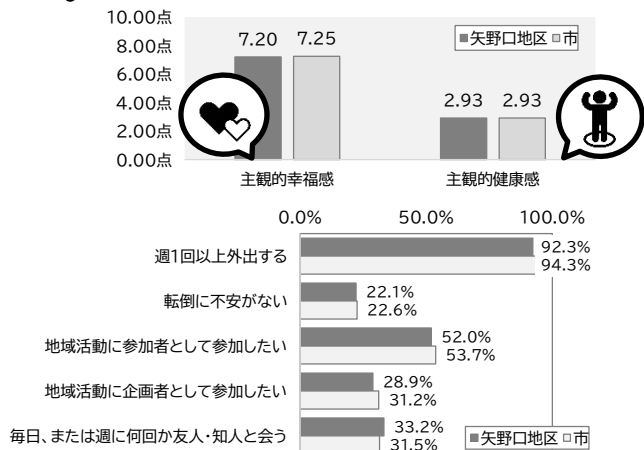
2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



元気高齢者の心身の状態



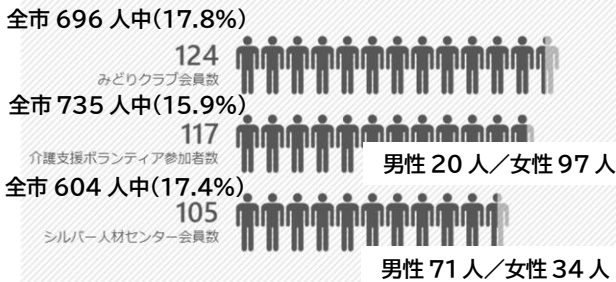
矢野口地区(n=298),市全体(n=1,976)

3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

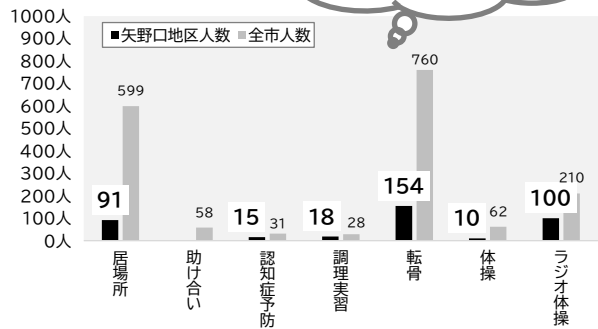
住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在



通いの場

合計 矢野口 : 388人(22.2%)
市全体: 1,748人



か所数	居場所	助け合い	認知症予防	調理実習	転骨	体操	ラジオ体操
矢野口地区	12	0	1	1	7	1	1
全市	56	1	3	2	55	6	4

(令和5年8月31日現在)

OOMARU 大丸

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

人口	9,556人		
高齢者人口	2,356人	高齢化率	24.7%
後期高齢者人口	1,314人	後期高齢化率	13.8%
85歳以上高齢者人口	325人	85歳以上高齢化率	3.4%

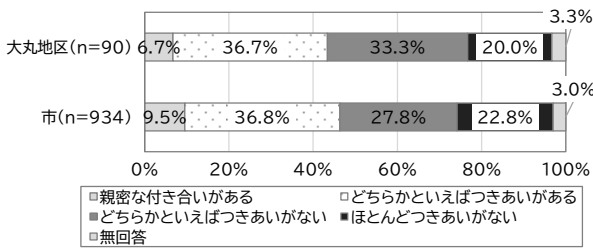
地区の 特徴

- 近所付き合いはどちらかといえば付き合いがない人が多く、地域団体に参加している人も少ない。
- 高齢化率は24.7%だが、5大リスクのない人の割合が高く、主観的幸福感や健康感も高い。
- 通いの場は8か所ある。

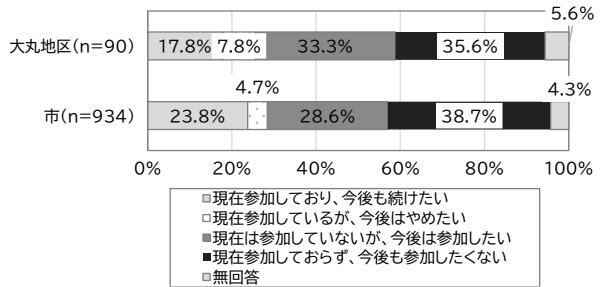
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



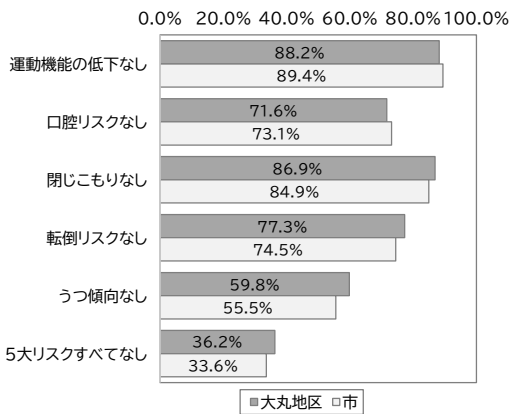
～地域の団体や組織への参加意向～



2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

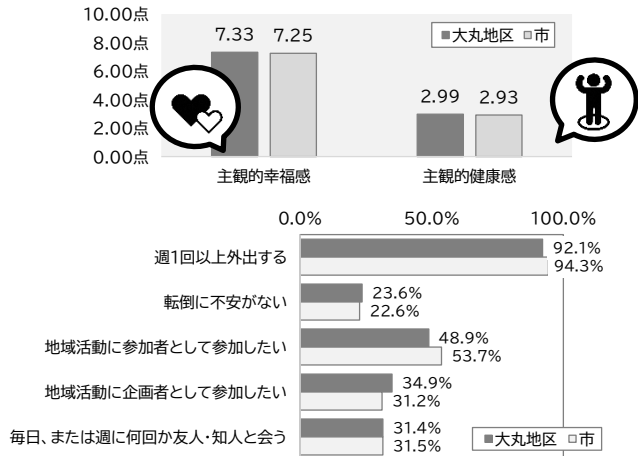
令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



大丸地区(n=229),市全体(n=1,976)

元気高齢者の心身の状態

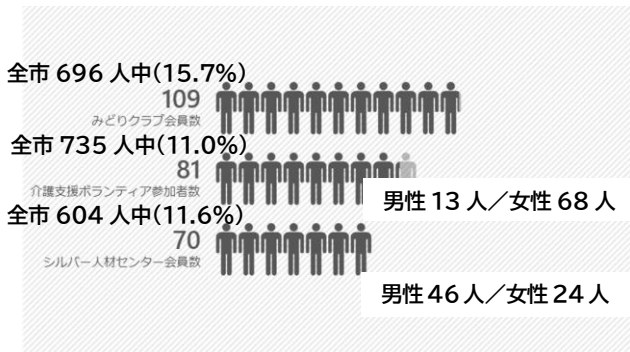


3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

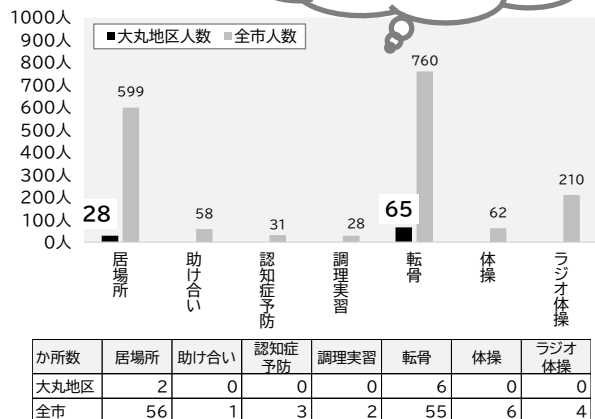
住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在



通いの場

合計 大丸 : 93 人(5.3%)
市全体: 1,748 人



(令和5年8月31日現在)

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

人口	15,094人		
高齢者人口	2,578人	高齢化率	17.1%
後期高齢者人口	1,422人	後期高齢化率	9.4%
85歳以上高齢者人口	448人	85歳以上高齢化率	3.0%

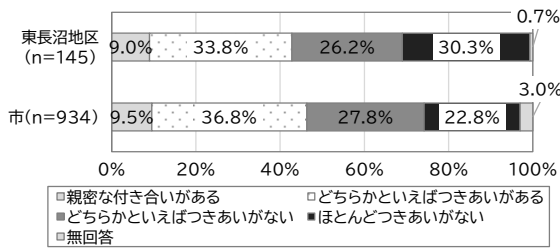
地区の
特徴

- 地域団体等に参加している人の割合が低い。
- 高齢化は進んでいないが、閉じこもりリスクやうつ傾向がない人の割合が低い。
- 通いの場は10か所ある。

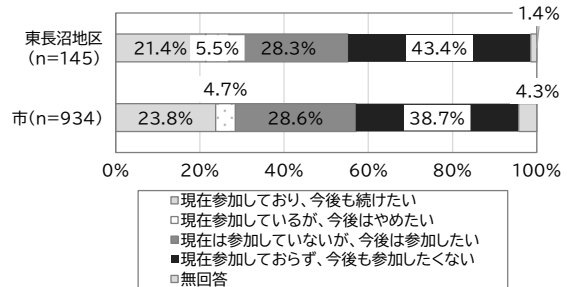
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



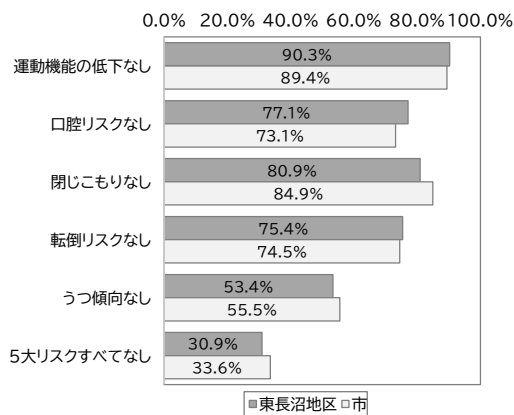
～地域の団体や組織への参加意向～



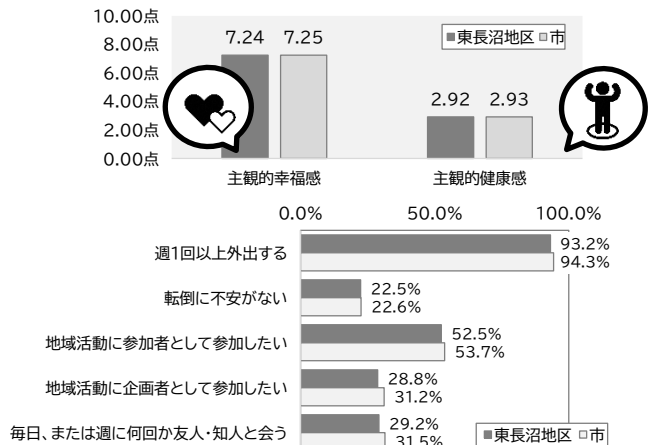
2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



元気高齢者の心身の状態



東長沼地区(n=236),市全体(n=1,976)

3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在

全市 696人中(4.5%)

31 人
みどりクラブ会員数

全市 735人中(9.4%)

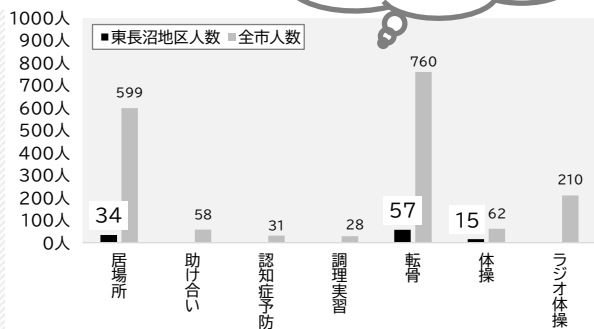
69 人
介護支援ボランティア参加者数
男性 11人 / 女性 58人

全市 604人中(13.1%)

79 人
シルバー人材センター会員数
男性 53人 / 女性 26人

通いの場

合計 東長沼 : 106人(6.1%)
市全体: 1,748人



か所数	居場所	助け合い	認知症予防	調理実習	転骨	体操	ラジオ体操
東長沼地区	4	0	0	0	5	1	0
全市	56	1	3	2	55	6	4

(令和5年8月31日現在)

MOMURA 百村

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

人口	5,395人		
高齢者人口	1,011人	高齢化率	18.7%
後期高齢者人口	568人	後期高齢化率	10.5%
85歳以上高齢者人口	186人	85歳以上高齢化率	3.4%

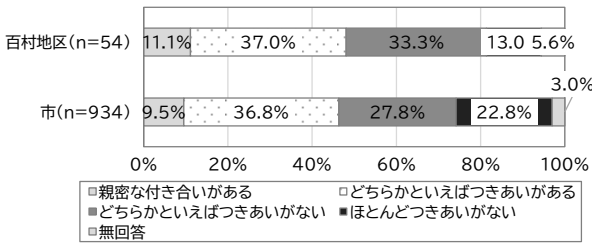
地区の 特徴

- 地域団体等に参加している人の割合は低い。
- 特に口腔リスク、うつ傾向のない人の割合が低い。一方、地域活動への参加意向が高い。
- 通いの場は10か所ある。

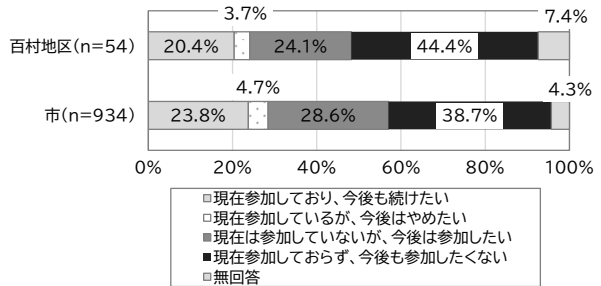
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



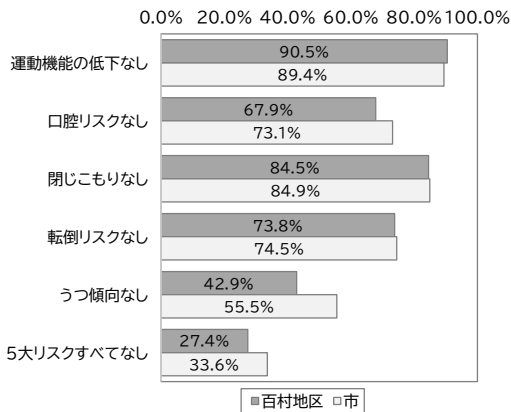
～地域の団体や組織への参加意向～



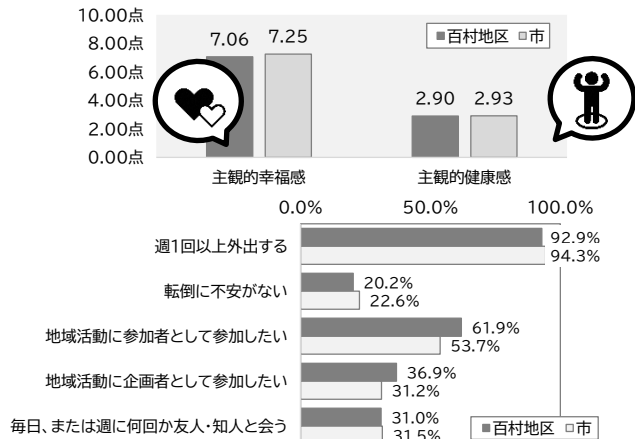
2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



元気高齢者の心身の状態



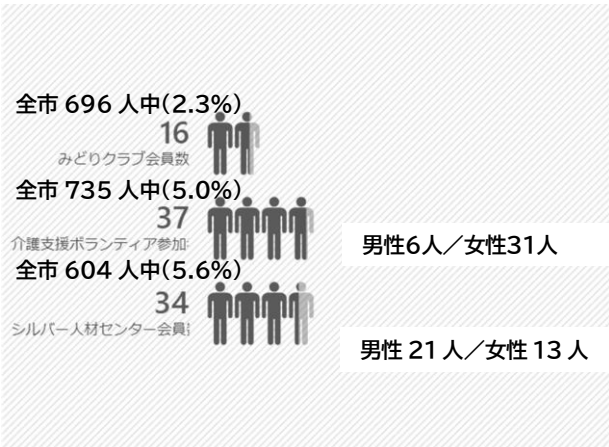
百村地区(n=84),市全体(n=1,976)

3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

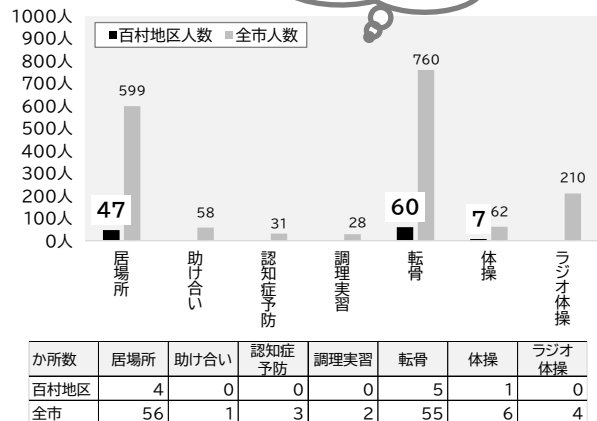
住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在



通いの場

合計 百村 : 114人(6.5%)
市全体 : 1,748人



(令和5年8月31日現在)

地区の
特徴

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

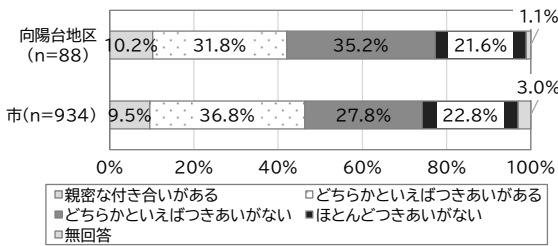
人口	8,700人		
高齢者人口	2,791人	高齢化率	32.1%
後期高齢者人口	1,235人	後期高齢化率	14.2%
85歳以上高齢者人口	272人	85歳以上高齢化率	3.1%

- 近所付き合いがない人の割合が多いが、地域団体等へ現在参加しており今後も参加した人が多い。
- 高齢化率は3割を超えているが、5大リスクのない人の割合が高く、主観的健康感・幸福感が高い。
- 通いの場は20か所ある。

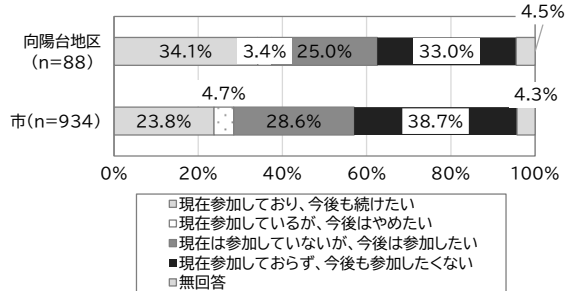
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



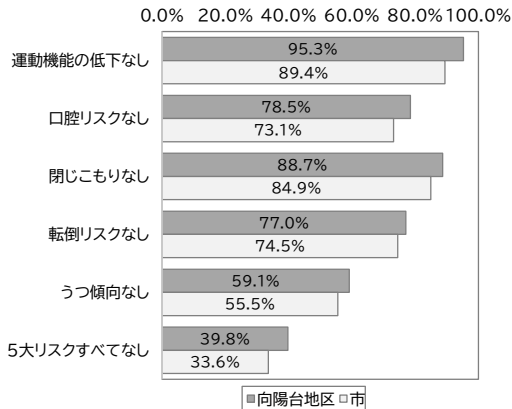
～地域の団体や組織への参加意向～



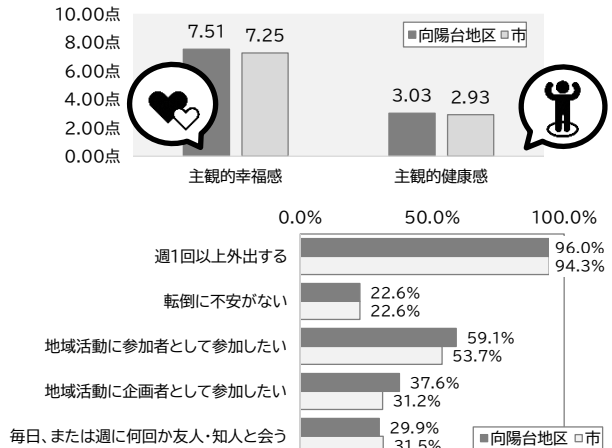
2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



元気高齢者の心身の状態



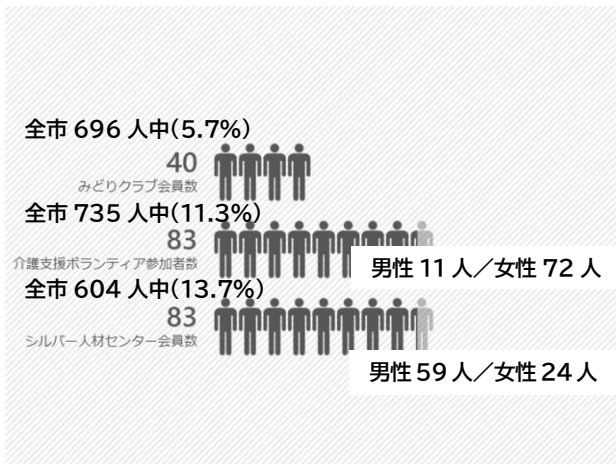
向陽台地区(n=274),市全体(n=1,976)

3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

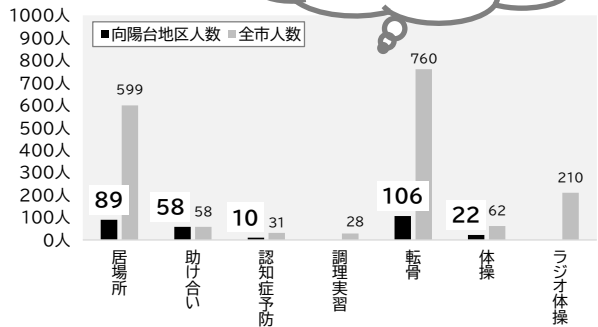
住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在



通いの場

合計 向陽台 : 285人(16.3%)
市全体: 1,748人



か所数	居場所	助け合い	認知症予防	調理実習	転骨	体操	ラジオ体操
向陽台地区	7	1	1	0	9	2	0
全市	56	1	3	2	55	6	4

(令和5年8月31日現在)

地区の特徴

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

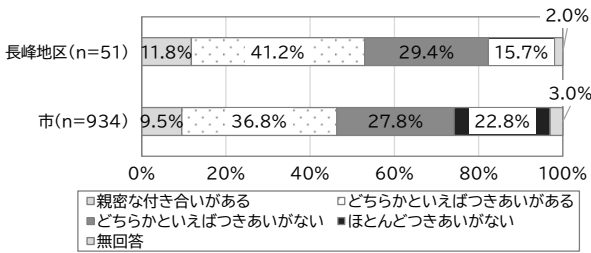
人口	4,486人		
高齢者人口	1,225人	高齢化率	27.3%
後期高齢者人口	595人	後期高齢化率	13.3%
85歳以上高齢者人口	157人	85歳以上高齢化率	3.5%

- 近所付き合いは活発で、地域団体等へ現在参加しており今後も参加した人が多い。
- 高齢化は進んでいるが、転倒リスク以外のリスクのない人の割合が高く、主観的健康感、幸福度も高い。また、地域活動への参加意向も高い人の割合が多い。

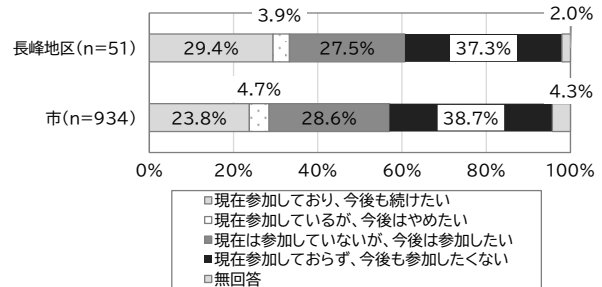
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



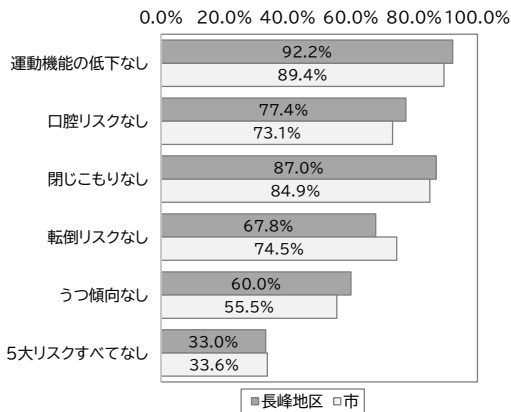
～地域の団体や組織への参加意向～



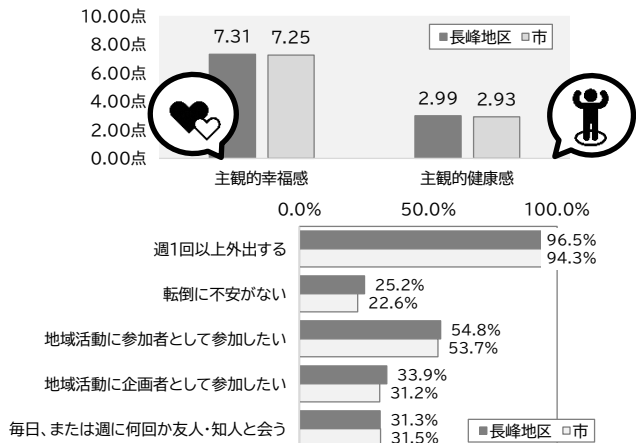
2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



元気高齢者の心身の状態



長峰地区(n=115),市全体(n=1,976)

3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在

全市 696人中(3.3%)

みどりクラブ会員数 23人

全市 735人中(5.6%)

介護支援ボランティア参加者数 43人

全市 604人中(6.8%)

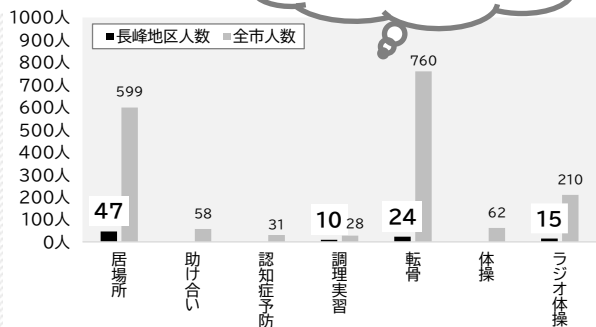
シルバー人材センター会員数 41人

男性7人/女性36人

男性23人/女性18人

通いの場

合計 長峰 : 96人(5.5%)
市全体 : 1,748人



か所数	居場所	助け合い	認知症予防	調理実習	転骨	体操	ラジオ体操
長峰地区	7	0	0	1	2	0	1
全市	56	1	3	2	55	6	4

(令和5年8月31日現在)

◎地区データ

※稲城市住民基本台帳(令和5年10月1日現在)

人口	11,546人		
高齢者人口	1,943人	高齢化率	16.8%
後期高齢者人口	881人	後期高齢化率	7.6%
85歳以上高齢者人口	244人	85歳以上高齢化率	2.1%

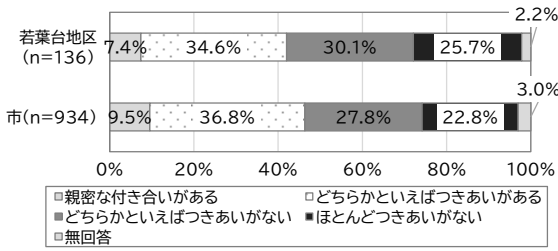
地区の
特徴

- 近所付き合いは少ないが、地域団体等への今後の参加意向がある人が多い。
- 高齢化は進んでおらず、5大リスクのない人の割合も多い。特に転倒不安のない人が多い。
- 通いの場は10か所ある。

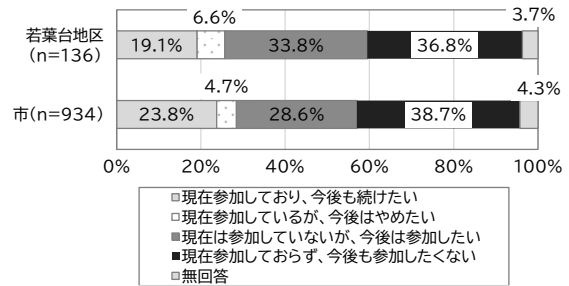
1 地域の日頃の地域に対する考え

令和元年度稲城市市民意識調査

～近所づきあいの程度～



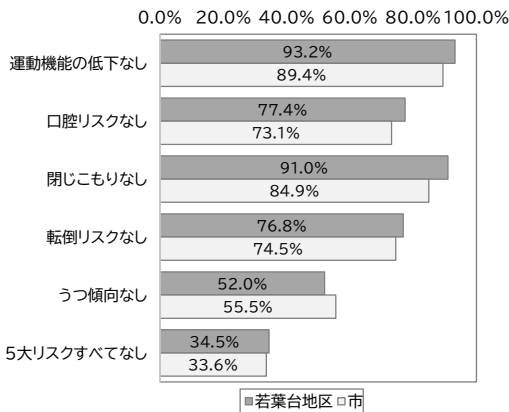
～地域の団体や組織への参加意向～



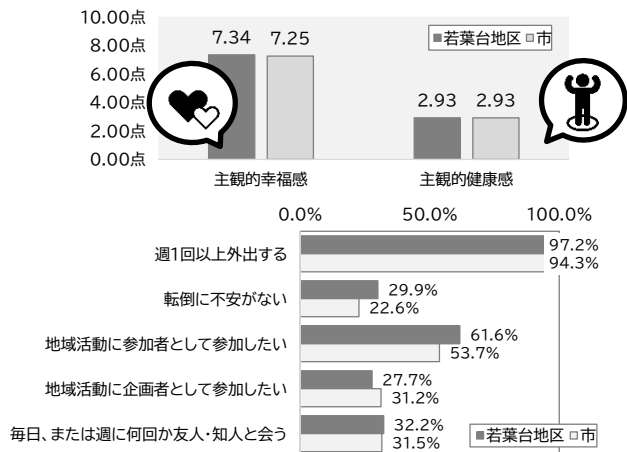
2 日常生活圏域ニーズ調査にみる心身の状況

令和5年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

元気高齢者の5大リスクのない方の割合



元気高齢者の心身の状態



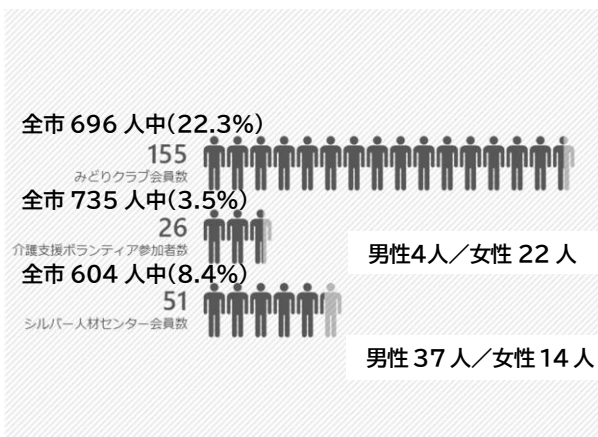
若葉台地区(n=177),市全体(n=1,976)

3 地域づくりの活動状況

市福祉部データ

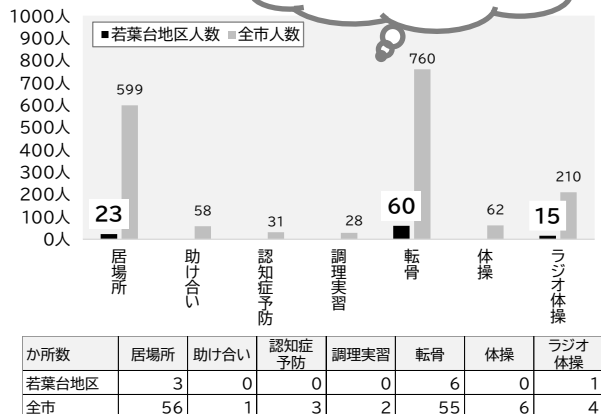
住民活動

※みどりクラブ 令和5年4月1日現在
介護支援ボランティア 令和5年3月31日現在
シルバー人材センター 令和5年8月1日現在



通いの場

合計 若葉台 : 98人(5.6%)
市全体: 1,748人



(令和5年8月31日現在)

